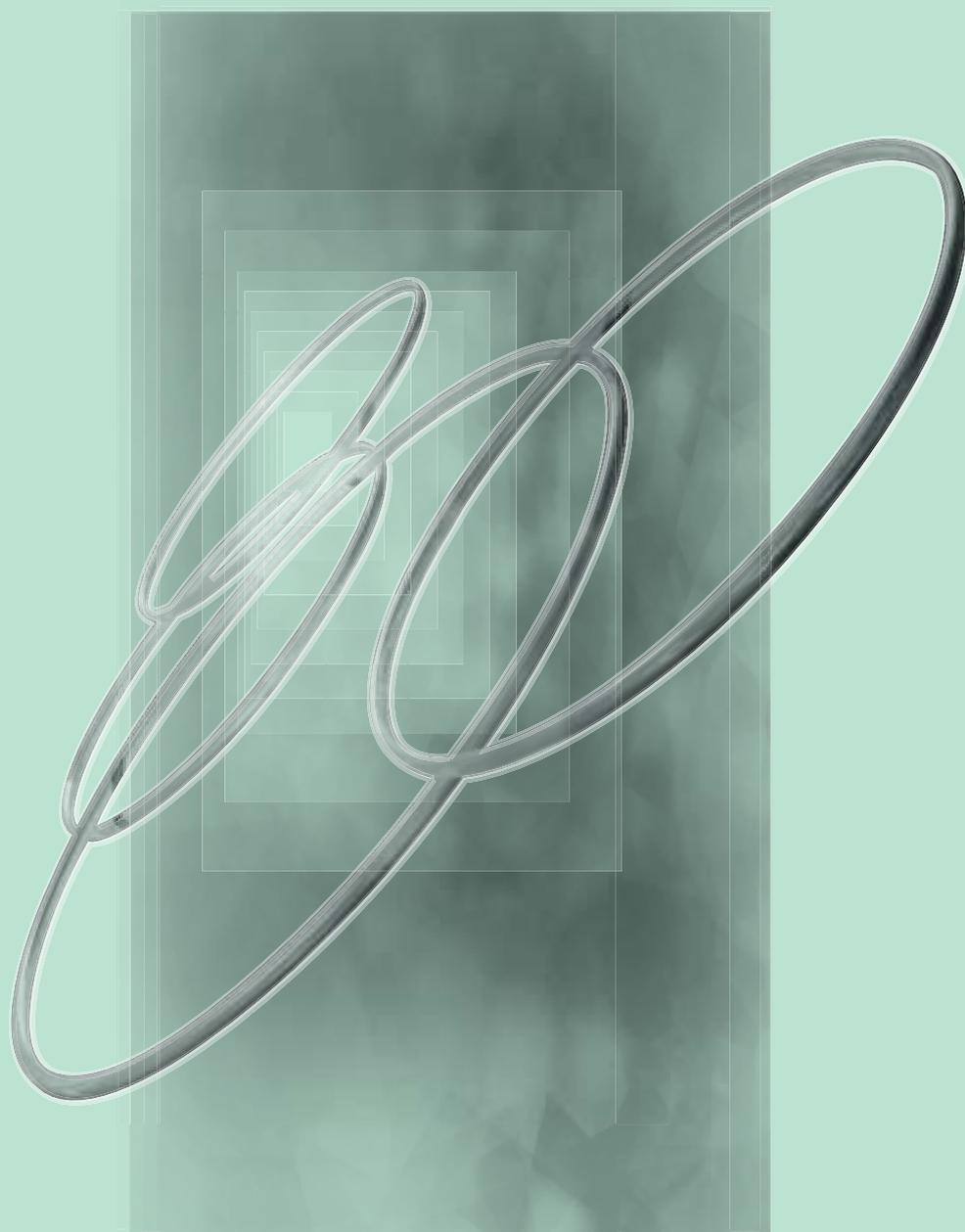


2007年度

シラバス 免許課程

—教職・司書・司書教諭—



【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスをよく読み、計画的な履修登録をしてください。

科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。

曜日時限も記載されていますが、変更等があるので受講の際は、教務課で確認をしてください。（ホームページでも確認することができます。）

履修開始学年は、目次の「学年」欄に、「学期」は（ ）内に記載されています。

※目次の「備考」の表記 国教：国際教養学部生 経：経済学部生 法：法学部生

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
	【春学期】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
⑥ テキスト 参考文献		⑦ 評価方法

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
※該当科目がない場合は「***」で表示されます。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 半期完結科目は春学期終了時におよび秋学期終了時に成績評価が出ます。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
	【秋学期】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
⑥ テキスト 参考文献		⑦ 評価方法

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

※免許の履修に際しては、「履修の手引き(免許課程)」および「2007年度時間割表」をご参照ください。

教職課程 合併科目一覧

【教職科目と国際教養学部科目の合併】

教職科目	国際教養学部科目	学期	曜日	時限	担当者
教職論	教育科学研究Ⅳ(教職論)	春	火	2	川村 肇
		秋	木	4	
		春	月	2	吉田 武大
		秋	月	2	
教育原論	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	春	木	4	川村 肇
		秋	火	2	
		春	月	1	小島 優生
		秋	水	2	
教職心理学	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	春	金	1	田口 雅徳
		秋	金	1	
		秋	水	1	森川 正大
		春	火	4	横田 雅弘

【教職科目と全学共通授業科目と国際教養学部科目の合併】

教職科目	全学共通授業科目	国際教養学部科目	学期	曜日	時限	担当者
社会学概説Ⅰ	社会学a	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	春	土	1	岡村 圭子
			春	土	2	
社会学概説Ⅱ	社会学b	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	秋	土	1	岡村 圭子
			秋	土	2	
倫理学概説Ⅰ	倫理学a	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	春	火	2	松丸 壽雄
倫理学概説Ⅱ	倫理学b	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	秋	火	2	
心理学概説Ⅰ	ことばと思想Ⅲ(科学としての心理学とこころの世界)	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	秋	火	2	田口 雅徳

★教職に関する科目の単位として履修する場合は、教職科目を履修して下さい。

★国際教養学部の学生で、教職科目を履修する場合は国際教養学部科目を履修して下さい。卒業要件単位に含まれると同時に、教職科目の単位としてカウントすることができます。

★全学共通授業科目と合併している教職科目または国際教養学部科目を履修しても、全学共通授業科目の単位にはなりません。全学共通授業科目の単位として履修する場合は、全学共通授業科目を登録しますが、重複履修ができませんのでご注意ください。

《参考例》

教職科目「社会学概説Ⅰ」を履修すると、全学共通授業科目「社会学a」および国際教養学部科目「多文化共生研究Ⅲ」は履修できません。逆も同様です。

※教職科目以外の時間割コードは、自学科の時間割冊子もしくはシラバス目次を参照して下さい。

シラバス目次

(2007年度 入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	06903	火	2	川村 肇	2	1(1)	国教は履修不可	1
	秋	06902	木	4					1
	春	06900	月	2	吉田 武大	2	1(1)	国教は履修不可	2
	秋	06901	月	2					2
教育原論	春	06907	木	4	川村 肇	2	1(1)	"	3
	秋	06906	火	2					4
	春	06904	月	1	小島 優生	2	1(1)	"	4
	秋	06905	水	2					5
教職心理学	春	06908	金	1	田口 雅徳	2	1(1)	"	5
	秋	06909	金	1					6
	秋	06911	水	1	森川 正大	2	1(1)	"	6
	春	06910	火	4					7

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田 康範	2	1(1)		58
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4	會田 康範	2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		59
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		60
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		61
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		62
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		
社会学概説Ⅰ	春	07027	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	国教は履修不可	65
	春	13333	土	2					
社会学概説Ⅱ	秋	07028	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	"	67
	秋	13334	土	2					
倫理学概説Ⅰ	春	07031	火	2	松丸 壽雄	2	1(1)	"	67
倫理学概説Ⅱ	秋	07032	火	2	松丸 壽雄	2	1(1)	"	69
心理学概説Ⅰ	秋	07104	火	2	田口 雅徳	2	1(1)	"	

シラバス目次

(2003年度～2006年度 入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	06903	火	2	川村 肇	2	1(1)		1
	秋	06902	木	4					
	春	06900	月	2	吉田 武大				2
	秋	06901	月	2					
教育原論	春	06907	木	4	川村 肇	2	1(1)		3
	秋	06906	火	2					
	春	06904	月	1	小島 優生				4
	秋	06905	水	2					
教職心理学	春	06908	金	1	田口 雅徳	2	1(1)		5
	秋	06909	金	1					
	秋	06911	水	1	森川 正大				6
	春	06910	火	4	横田 雅弘				
教育制度	春	06915	火	1	小島 優生	2	2(3)		8
	春	06914	月	1					
	秋	06913	月	1	吉田 武大				9
	秋	06917	金	4					
教育課程論	秋	06917	金	4	林 尚示	2	2(3)		10
	春	06918	水	2	安井 一郎				
	春	06919	月	3					
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	月	5	本多 喜三郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は調整	12
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	月	5	本多 喜三郎	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡 千利世	2	3(5)		13
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5	鈴木 英一	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	木	1	木村 恵	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	木	1	木村 恵	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	金	1	清水 由理子	2	3(5)		15
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	金	1	清水 由理子	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	水	1	J. J. ダゲン	2	3(5)		16
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	水	1	T. マーフィー	2	3(5)		
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村 公子	2	3(5)		17
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1	中村 公子	2	3(5)		
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		18
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1	秋本 弘章	2	3(5)	19	
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本 弘章	2	3(5)	20	
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	月	5	會田 康範	2	3(5)		
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川 輝之	2	3(5)	23	
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4	小川 輝之	2	3(5)		
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本 弘章	2	3(5)	24	
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井 一郎	2	3(5)		25
	秋	06944	月	5					
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	水	1	浅岡 千利世	2	3(5)		26
	秋	06945	月	4	清水 由理子				
道徳教育の研究	春	06947	金	2	小島 優生	2	2(3)		28
	秋	06948	月	1					
	春	06949	火	4	安井 一郎				29
特別活動	春	06952	金	2	小川 輝之	2	2(3)		30
	春	06953	金	3					
	秋	06950	月	4	安井 一郎				31

シラバス目次

(2003年度～2006年度 入学者適用科目)

【教職課程】 教職に関する科目

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ																																																																																																																																																																																																																																																																																
教育方法学	春	06956	火	3	町田 喜義	2	2(3)		32																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06957	火	3						生徒指導法	春	06955	火	2	安井 一郎	2	2(3)		33	春	06961	水	3	学校カウンセリング	秋	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34	春	06958	金	4	総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	総合演習	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06965	水	1	総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06973	火	2	総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-
生徒指導法	春	06955	火	2	安井 一郎	2	2(3)		33																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06961	水	3						学校カウンセリング	秋	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34	春	06958	金	4	総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	総合演習	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06965	水	1	総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06973	火	2	総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---								
学校カウンセリング	秋	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06958	金	4						総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	総合演習	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06965	水	1	総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06973	火	2	総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																						
総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06962	木	2						総合演習	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06965	水	1	総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06973	火	2	総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																				
総合演習	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06965	水	1						総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06973	火	2	総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																		
総合演習	春	06973	火	2	森川 正大	2	2(3)		37																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06973	火	2						総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06970	木	4	総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																
総合演習	春	06966	水	2	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06970	木	4						総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06971	金	5	総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																														
総合演習	秋	06969	金	4	小島 優生	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	06971	金	5						総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																												
総合演習	春	06968	水	1	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06972	月	3						総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	秋	06967	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																										
総合演習	秋	06967	金	2	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06967	金	2						教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	08753	金	2	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																								
教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	08750	月	1	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	08753	金	2						教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	08751	月	3	教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																						
教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08754	水	3	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	08751	月	3						教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	08752	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																				
教育実習論Ⅰ(事前指導)	秋	08749	火	1	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	08752	火	3						教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	秋	12782	火	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																		
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	12783	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	12782	火	3						教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46	秋	06981	月	2	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																
教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	09113	月	2	小川 輝之	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	46																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06981	月	2						教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47	秋	06980	火	4	介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																														
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09112	水	2	川村 肇	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	47																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	06980	火	4						介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48	秋	12781	水	2	介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																												
介護ボランティアの理論と実践	秋	12780	水	1	小島 優生	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	48																																																																																																																																																																																																																																																																																
	秋	12781	水	2						介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49	春	09109	木	2	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																										
介護ボランティアの理論と実践	春	06997	木	1	安井 一郎	2	4(8)	受講者多数の 場合は抽選	49																																																																																																																																																																																																																																																																																
	春	09109	木	2						教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51	教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																																								
教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	新井 利民	2	2(3)		50																																																																																																																																																																																																																																																																																
教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	小川 孔美	2	2(3)		51																																																																																																																																																																																																																																																																																
教育実習Ⅰ	集中	07608	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																																																																																
教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																																																																																

※2007年度教育実習予定者は必ず登録すること

シラバス目次

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田 康範	2	1(1)		
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4	會田 康範	2	1(1)		58
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		59
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		60
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		61
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		62
法学概説Ⅰ	春	07023	木	3	内山 良雄	2	2(3)	経・法は履修不可	63
法学概説Ⅱ	秋	07024	木	3	内山 良雄	2	2(3)	〃	
政治学概説Ⅰ	春	07025	木	1	杉田 孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可	64
政治学概説Ⅱ	秋	07026	木	1	杉田 孝夫	2	2(3)	〃	
社会学概説Ⅰ	春	07027	土	1	岡村 圭子	2	2(3)		
	春	13333	土	2					
社会学概説Ⅱ	秋	07028	土	1					
	秋	13334	土	2	岡村 圭子	2	2(3)		65
哲学概説Ⅰ	春	07029	火	5	河口 伸	2	2(3)		
哲学概説Ⅱ	秋	07030	火	5	河口 伸	2	2(3)		66
倫理学概説Ⅰ	春	07031	火	2	松丸 壽雄	2	2(3)		
倫理学概説Ⅱ	秋	07032	火	2	松丸 壽雄	2	2(3)		67
宗教学概説Ⅰ	春	07033	木	5	河口 伸	2	2(3)		
宗教学概説Ⅱ	秋	07034	木	5	河口 伸	2	2(3)		68
心理学概説Ⅰ	秋	07104	火	2	田口 雅徳	2	2(3)		69
心理学概説Ⅱ	秋	07105	木	3	田口 雅徳	2	2(3)		70

シラバス目次

(2002年度以前入学者適用科目)

【教職課程】 教職に関する科目

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	06903	火	2	川村 肇	2	1(1)		1
	秋	06902	木	4					
	春	06900	月	2	吉田 武大				2
	秋	06901	月	2					
教育原論	春	06907	木	4	川村 肇	2	1(1)		3
	秋	06906	火	2					
	春	06904	月	1	小島 優生				4
	秋	06905	水	2					
教職心理学	春	06908	金	1	田口 雅徳	2	1(1)		5
	秋	06909	金	1					
	秋	06911	水	1	森川 正大				6
	春	06910	火	4					
教育制度	春	06915	火	1	小島 優生	2	2(3)		8
	春	06914	月	1					
	秋	06913	月	1	吉田 武大				9
	秋	06917	金	4					
教育課程論	春	06918	水	2	安井 一郎	2	2(3)		10
	春	06919	月	3					
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	月	5	本多 喜三郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は調整	12
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	月	5	本多 喜三郎	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡 千利世	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5	鈴木 英一	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	木	1	木村 恵	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	木	1	木村 恵	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	金	1	清水 由理子	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	金	1	清水 由理子	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	水	1	J. J. ダゲン	2	3(5)		
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	水	1	T. マーフィー	2	3(5)		
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村 公子	2	3(5)		
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1	中村 公子	2	3(5)		
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	月	5	會田 康範	2	3(5)		
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川 輝之	2	3(5)		
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4	小川 輝之	2	3(5)		
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井 一郎	2	3(5)		25
	秋	06944	月	5					
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	水	1	浅岡 千利世	2	3(5)		26
	秋	06945	月	4					
道徳教育の研究	春	06947	金	2	小島 優生	2	2(3)		28
	秋	06948	月	1					
特別活動	春	06949	火	4	安井 一郎				29
	春	06952	金	2					
	春	06953	金	3	小川 輝之	2	2(3)		30
	秋	06950	月	4					
					安井 一郎				31

シラバス目次

(2002年度以前入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ																																																																																																																																																																																																																																																		
教育方法学	春	06956	火	3	町田 喜義	2	2(3)		32																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06957	火	3						生徒指導法	春	06955	火	2	安井 一郎	2	2(3)		33	春	06961	水	3	学校カウンセリング	春	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34	秋	06958	金	4	総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06973	火	2	総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06966	水	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-
生徒指導法	春	06955	火	2	安井 一郎	2	2(3)		33																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06961	水	3						学校カウンセリング	春	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34	秋	06958	金	4	総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06973	火	2	総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06966	水	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---								
学校カウンセリング	春	06960	金	3	小川 輝之	2	2(3)		34																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06958	金	4						総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35	春	06962	木	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06973	火	2	総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06966	水	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																						
総合演習	春	06963	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		35																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06962	木	2						教育実習論(事前・事後指導)	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36	春	06973	火	2	総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06966	水	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																				
教育実習論(事前・事後指導)	春	06965	水	1	瀧本 孝雄	2	2(3)		36																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06973	火	2						総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37	春	06966	水	2	教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																		
総合演習	春	06977	火	2	森川 正大	2	2(3)		37																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06966	水	2						教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38	秋	06969	金	4	総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																
教育実習論(事前・事後指導)	春	06970	木	4	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06969	金	4						総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39	春	06968	水	1	教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																														
総合演習	秋	06971	金	5	林 尚示	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	39																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06968	水	1						教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40	秋	06972	月	3	総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																												
教育実習論(事前・事後指導)	春	06972	月	3	安井 一郎	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	40																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06972	月	3						総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41	春	06975	月	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																										
総合演習	秋	06967	金	2	吉田 武大	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	41																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06975	月	1						教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42	秋	06979	水	3	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																								
教育実習論Ⅱ(事後指導)	春	06978	金	2	和田 智	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06979	水	3						教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43	秋	06974	火	1	教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																						
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06976	月	3	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	43																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	06974	火	1						教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44	秋	12783	月	1	教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																				
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06977	火	3	小川 輝之	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	44																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	12783	月	1						教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45	春	09113	月	2	教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																		
教育実習Ⅰ	秋	12782	火	3	川村 肇	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	45																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	09113	月	2						教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46	秋	09112	水	2	介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																
教育実習Ⅱ	秋	06981	月	2	小島 優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	46																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	09112	水	2						介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47	秋	12780	水	1	教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																														
介護ボランティアの理論と実践	秋	06980	火	4	安井 一郎	2	4(8)	カリキュラム外科目	47																																																																																																																																																																																																																																																		
	秋	12780	水	1						教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48	春	06997	木	1	教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																												
教育実習Ⅰ	秋	12781	水	2	新井 利民	2	2(3)	カリキュラム外科目	48																																																																																																																																																																																																																																																		
	春	06997	木	1						教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49	集中	07608	-	-	教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																										
教育実習Ⅱ	春	09109	木	2	小川 孔美	2	4(7)	※	49																																																																																																																																																																																																																																																		
	集中	07608	-	-						教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																																								
教育実習Ⅱ	集中	07609	-	-	-----	2	4(7)	※	---																																																																																																																																																																																																																																																		

※2007年度教育実習予定者は必ず登録すること

【カリキュラム外科目】

2003年度以降入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

シラバス目次

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田 康範	2	1(1)		58
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4	會田 康範	2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		59
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		60
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		61
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		62
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		
法律学概説	通年	06990	木	3	内山 良雄	4	2(3)	経・法は履修不可	63
政治学概説	通年	06991	木	1	杉田 孝夫	4	2(3)	経・法は履修不可	64
社会学概説	通年	06992	土	1	岡村 圭子	4	2(3)		65
	通年	13335	土	2					
哲学概説	通年	06993	火	5	河口 伸	4	2(3)		66
倫理学概説	通年	06994	火	2	松丸 壽雄	4	2(3)		67
宗教学概説	通年	06995	木	5	河口 伸	4	2(3)		68
心理学概説	通年 (秋)	06996	火	2	田口 雅徳	4	2(3)		69
			木	3					70

シラバス目次

(2003年度以降入学者適用科目)

【司書課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷 英章	2	2(3)		71
図書館概論	春	06999	金	1	井上 靖代	2	2(3)		72
図書館サービス論	春	07035	木	2	井上 靖代	2	2(3)		73
図書館経営論	秋	07036	木	2	井上 靖代	2	2(3)		
情報サービス論a	春	08747	月	2	松下 鈞	2	3(5)	受講定員あり	74
	春	08830	月	3					
情報サービス論b	秋	08748	月	2	福田 求	2	3(5)	"	
	秋	08831	月	3					
情報検索演習	春	07004	火	4	小畑 信夫	2	3(5)	"	75
	春	07005	火	3					
	秋	07003	火	1					
図書館資料論	春	07006	金	3	井上 靖代	2	2(3)		77
専門資料論	春	07007	月	5	松下 鈞	2	2(3)		78
資料組織概説	春	07008	月	4	松下 鈞	2	3(5)		
資料組織演習	秋	07009	月	4	松下 鈞	2	3(5)	受講定員あり	79
	秋	07010	月	5					
児童サービス論	秋	07011	金	1	井上 靖代	2	2(3)		80
図書及び図書館史	秋	07012	木	4	井上 靖代	2	2(3)		81
資料特論	春	07015	木	1	千葉 治	2	3(5)		82
コミュニケーション論	春	07013	火	1	町田 喜義	2	2(3)		83
図書館特論	秋	07014	木	1	千葉 治	2	3(5)	受講定員あり	84

(2002年度以前入学者適用科目)

【司書課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷 英章	2	2(3)		71
図書館概論	春	06999	金	1	井上 靖代	2	2(3)		72
図書館サービス経営論	通	07000	木	2	井上 靖代	4	2(3)		73
情報サービス論	通	07001	月	2	(春)松下 鈞 (秋)福田 求	4	3(5)	受講定員あり	74
	通	07002	月	3					
情報検索演習	春	07004	火	4	小畑 信夫	2	3(5)	"	75
	春	07005	火	3					
	秋	07003	火	1					
図書館資料論	春	07006	金	3	井上 靖代	2	2(3)		77
専門資料論	春	07007	月	5	松下 鈞	2	2(3)		78
資料組織概説	春	07008	月	4	松下 鈞	2	3(5)		
資料組織演習	秋	07009	月	4	松下 鈞	2	3(5)	受講定員あり	79
	秋	07010	月	5					
児童サービス論	秋	07011	金	1	井上 靖代	2	2(3)		80
図書及び図書館史	秋	07012	木	4	井上 靖代	2	2(3)		81
資料特論	春	07015	木	1	千葉 治	2	3(5)		82
コミュニケーション論	春	07013	火	1	町田 喜義	2	2(3)		83
図書館特論	秋	07014	木	1	千葉 治	2	3(5)	受講定員あり	84

シラバス目次

(全学生共通)

【司書教諭課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	春	07016	木	3	井上 靖代	2	2(3)	受講定員あり	85
学校図書館メディアの構成	春	07017	木	4	井上 靖代	2	2(3)	〃	
学習指導と学校図書館	秋	07019	木	3	井上 靖代	2	2(3)	受講定員あり	86
読書と豊かな人間性	春	07020	水	2	井上 靖代	2	2(3)		
情報メディアの活用	秋	07021	火	3	福田 求	2	2(3)		87
	秋	07022	火	4		2	2(3)		

03年度以降 02年度以前	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とする。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。 こうした問題への教師の取り組みを考えることを通し、教職の意義及び教員の役割及び教員の職務内容を学ぶ。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行なう。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求める。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けること。 ・右の講義計画は、討議の進み具合等によって、変更することがありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割 2 学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 3 学級崩壊を考える（グループ討論） 4 学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について 5 ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について（その1） 6 体罰を考える（グループ討論） 7 体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 8 体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その2） 9 いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 10 いじめを考える（グループ討論） 11 教員の職務内容（研修、サービス、身分保障）について 12 様々な進路選択の問題を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類による。		期末レポートと数回の小レポートを総合評価する。	

03年度以降 02年度以前	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教職論	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】・【講義概要】</p> <p>本講義では、教職課程の入門科目として、教員の仕事や役割、そしてどうすれば教員になることができるかを理解するとともに、人間形成を志向する学校教育の実践的な資質能力、力量形成を模索させることを目的としている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教員とは何か 3. 学校教育制度の形成 4. 日本における教員制度の歴史 5. 教員の特質と現代的課題(1) 6. 教員の特質と現代的課題(2) 7. 教員の業務と服務(1) 8. 教員の業務と服務(2) 9. 教育をめぐる諸問題にどう取り組むか 10. 生徒指導～いじめと不登校 11. 生徒指導～学級崩壊など 12. 教育実習と介護等体験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類による		期末の試験による	

03年度以降 02年度以前	教職論	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。</p> <p>【概要】 1. 子どもの権利条約や新旧教育基本法等を素材として、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。</p> <p>【要望等】 ・ほぼ毎回、感想文を書くこと、資料を読むことを求め、学生間の討論を予定している。また、ビデオ等の教材提示があるので、遅刻や欠席は避けること。 ・法的小および歴史的な理解には、特に力を入れてほしい。 ・提示された参考文献（ブックレット）を読み進めておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか 2 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史（その1） 3 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史（その2） 4 学力問題の国際比較（学力調査について）／小テスト実施予定 5 学力問題の国際比較（ドイツの事例） 6 学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 7 系統学習と問題解決学習について 8 能力を考える（教育基本法第3条） 9 教育における競争と自由の問題を考える 10 子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP） 11 子どもに固有の権利と人権との関係 12 子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介する。		期末試験に、感想文や小レポートの提出、小テストの点数等を加味する。	

03年度以降 02年度以前	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義は、教職課程履修者が最初に受講する講義として設定されている。したがって、教職課程の基礎理論として歴史・思想や学校経営・教育行政など現在の教育課題と結びつけながら、ひろく解説し、導入とすることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>右のような計画に基づき、VTRや新聞記事等多用しながら講義を行い、「それについてどう考えるか」を大切にしたい。授業中に指名し、意見を述べてもらうことも考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス 2. 獨協大学で教員免許が取れるわけ 3. 教育改革の動向～教育再生会議答申を中心に～ 4. 教育とはなにか 5. 子どもの成長発達と家庭教育 6. 現代の学校と教育病理 7. 子どもを生かす教育内容 8. 人間的成長を援助する生徒指導 9～10. 子どもの権利保障と教育制度 11. 個性を生かす学校経営 12. 生涯学習と私たちの学び 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：山崎清男編著（2004）『教育学を学ぶ』川島書店</p> <p>その他は授業中に指示する</p>		<p>連休明けの読書レポート、及び学期末のテストにより、評価する。意見発表など授業への貢献も加味したい。</p>	

03年度以降 02年度以前	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教職心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で、教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立ちうるのかを受講者と共に考えていきたい。本講義の授業概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職心理学とはなにか？ 2. 教育評価と学力問題 3. 学習の動機付け 4. 発達障害の理解と教育 		<p>本講義の授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の領域と歴史的展開 2. 教育測定と教育評価 3. 教育評価の方法 4. 教育評価と学力問題 5. 学習の原理 6. 学習における動機付け 7. 学習意欲と原因帰属 8. 学習意欲と目標理論 9. 学習意欲と教師の役割 10. 発達期と発達課題 11. 発達と障害 12. 障害の理解と対応 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は授業にて配布する。		出席状況と学期末の試験により総合的に評価する。	

03年度以降 02年度以前	教職心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教職心理学	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、教師の役割について考察する。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>① 教育心理学の課題 ② 発達過程の諸原理 ③ 学習過程の諸原理 ④ 生徒の個人差と教育 ⑤ アイデンティティの形成 ⑥ 生徒理解のポイントとかわり方 ⑦ 教師の役割</p>		<p>1 教育心理学の課題 2 人間の成長と発達の原理 3 発達段階と発達課題 4 青年期までの発達 5 社会性・道徳性の発達 6 学習の原理 7 内発的動機づけと学習意欲 8 個人差と教育 9 障害のある生徒と教育の課題 10 アイデンティティの形成 11 教育測定と評価 12 教師の自己点検／まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。	

03年度以降 02年度以前	教職心理学	担当者	横田 雅弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをより伸ばしていかなければならないかを知っていることが大切である。授業はこの自己理解の手助けを行う。第二の狙いは、実際に教職についてときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションが中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 心理テスト TPI の記入 3 発達と教育 (1) : 発達観と教育、認知的発達 4 発達と教育 (2) : 道徳性の発達、知能の発達と創造性 <自分の発達観と教育観を知る> 5 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、青年期のアイデンティティ <自分のアイデンティティ> 6 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介 <自分の動機づけの傾向について考える> 7 交流分析の講義と自己分析 (1) 8 交流分析の講義と自己分析 (2) 9 ディスカッション=教師としての自分の強みと弱みの自己分析、教師の自己表現について 10 学校不応答と精神衛生: 不応答に関する心理的メカニズム 11 カウンセリングの基礎知識 12 小テスト実施およびレポート (A4 ワープロ 2枚) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>パワーポイントの資料は全てプリントとして配布する。その他の参考文献は適宜授業中に紹介する。</p>		<p>小テストとレポートを中心に出席を加味して総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義は教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻くさまざまな法や制度について基本的な理解をすると同時に、昨今の教育改革についても知識を得、自分なりの学校像を持つことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>学校や教師を取り巻くさまざまな法や制度について概略的な説明をした後、その制度に関する最近の動向を紹介する。その動向について、ディスカッションや感想文を書くことで自身の意見を明確にしていけるようにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス 2. 教育再生会議答申を読む 3. 教育を受ける権利の保障（1） 4. 教育を受ける権利の保障（2） 5. 学校の管理と経営（1） 6. 学校の管理と経営（2） 7. 学校の管理と経営（3） 8. 教育活動を支える諸条件（1） 9. 教育活動を支える諸条件（2） 10. 教職員の養成・採用・研修と身分保障（1） 11. 教職員の養成・採用・研修と身分保障（2） 12. 教育課程行政と教科書 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト</p> <p>勝野正章・藤本典裕編著（2005）『教育行政学』学文社</p>		小レポートと期末試験による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育制度	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 教職課程の入門科目として、学校を中心とした教育をめぐる諸問題について、とくに教育制度の側面から理解を深めることを目標とする。</p> <p>【講義概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公教育制度がどのように形成されてきたのかを理解するために、その歴史的展開について学習する。 2. 現代日本の教育制度について、教育行政、学校組織などを中心に学習していく。 3. 諸外国の教育制度の動向を必要に応じて取り上げながら、現代日本の教育制度が抱える諸問題を明らかにする。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教育制度の役割 3. 諸外国の教育制度の形成 4. 日本の教育制度の形成 5. 教育制度の原理 6. 教育基本法体制と教育行政 7. 教育課程と学習指導要領 8. 学校経営 9. 学校教育組織の改革と教員の業務 10. 教員とは何か 11. 教員の養成と研修 12. 教育制度をめぐる諸問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類による。また、参考文献は講義で適宜紹介する。		期末の試験による。	

03年度以降 02年度以前	教育制度	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育課程論	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>学校教育において、生徒の学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が直面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資するための教育の内容と方法を探る。</p> <p>講義概要</p> <p>学習指導を中心に教室を運営するには、教育目標、指導内容、教授方法、授業評価などを統合的に把握し、計画し準備する必要がある。</p> <p>各教科教育における問題解決的な学習など、生徒の興味や関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容等について学ぶ。</p>		<p>全 12 回の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の基本原則 2 学習指導要領 3 教育課程と学習内容 4 新しいカリキュラム 5 カリキュラム開発 6 学習指導の原理 7 学習指導の形態 8 授業づくり 9 教育工学 10 授業分析 11 教育評価 12 これからの教育実践 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版、2002年。		レポート	

03年度以降 02年度以前	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。		1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程 4 教育課程編成の理論と方法(1) 5 教育課程編成の理論と方法(2) 6 教育課程編成の理論と方法(3) 7 学習指導要領と教育課程(1) 8 学習指導要領と教育課程(2) 9 学習指導要領と教育課程(3) 10 新教育課程の検討 11 総合学習の可能性 12 教育課程と評価	
講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。			
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語教授法に関する基礎知識は参考文献から得て欲しい。ここではドイツ語の初級文法で扱う主たる文法項目を取り上げて、その教授法を研究します。先ず受講生により思い通りに模擬授業を行ってもらい、問題点を議論します。「分かりやすい文法の教え方」を目指しますが、当然ながら「正解」はありません。与えられた条件の中で臨機応変に適切な教授法を工夫する能力を養うのが目的です。</p> <p>オリエンテーションで授業案の書き方や授業の進め方について話します。2回目の授業から受講生による模擬授業を開始しますので、初回の授業で担当日を決めます。受講希望者は必ず初回の授業に出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p> <p>模擬授業の実施時間は一人 30 分を予定していますが、受講生の人数によって変更する可能性があります。模擬授業の担当者は授業案を作成して授業を実施し、それ以外の受講生は生徒役を演じると共に、配付された授業評価用紙に記入して模擬授業の評価を行います。記入した授業評価用紙は模擬授業の担当者に返却されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 アルファベット / 単語の発音 3 人称代名詞 / 動詞の現在人称変化 4 名詞の性・数・格 / 冠詞 5 命令法 / 再帰動詞 6 話法の助動詞 7 動詞の 3 基本形 / 過去人称変化 8 完了形 9 受動態 10 形容詞の格変化 11 関係代名詞 12 接続法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂/境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts Langenscheidt 1993		模擬授業、授業案、出席状況等による。	

03年度以降 02年度以前	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教壇実習によりドイツ語教授法の具体的なテクニックを習得するのが目的です。秋学期には共通の教科書に基づいて、ドイツ語のコミュニケーション能力の養成を目的とする模擬授業をやってもらいます。予め配付された授業評価用紙に記入して互いの授業を評価し合うだけでなく、一人 30 分の模擬授業の後に、10 分の意見交換の時間を取る予定です。</p> <p>初回の授業で模擬授業の担当日を決めますので、受講希望者は必ず出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 模擬授業による教授法の研究 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子『Szenen 1 場面で学ぶドイツ語』三修社 2006 年 吉島茂/境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年		模擬授業、授業案、出席状況、レポート等による。	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course presents theoretical and practical issues of language learning and teaching from the general perspective as well as from the perspective of Japanese contexts. This class will be conducted both in English and in Japanese</p> <p>Please refer to Kogi-shien System whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p> <p>The number of students for this class is limited. Please attend the orientation on April 7th in order to register your choices.</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Reflection on language learning and teaching 3. Theoretical approaches and methods 4. Syllabus and teaching guidelines 5. Textbooks 6. Classroom management 7. Lesson planning 8. Materials development 9. Testing and evaluation 10. Team teaching 11. Teaching young learners 12. Teaching global issues 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Workbook (<u>The Teacher in Me</u> , PPODU, 07), handouts		Your grade will be based on your portfolio(journals, lesson plans and outside-class work) and in-class work (attendance, participation, short presentations).	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業は、「英語科教科教育法 I」の履修を前提として、中学校・高等学校で英語を教えるための具体的な教授内容と指導技術を実際の授業を念頭において学習し、さらに、高等学校検定教科書を使用し、多様な指導場面を想定し、指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>講義概要: 英語の授業で何をどのように指導するのがより効果的であるかを考えるために、まず、「指導要領」を参照しながら教授内容を検討し、実際の授業に向けて、教材内容と指導の進め方を念頭におきながら指導案の書き方を学習する。 高校英語検定教科書『New Legend English 1, 2』(鈴木英一・他, 編, 開拓社), 『On Air Communication 1』(八代京子・他, 編, 開拓社)を用いて、受講者全員が全ての場面・項目(導入, 概要把握, 要点理解, 新語, 文型・文法事項, 言語活動)に関して指導案を書き、できるだけ多く模擬授業を行う。</p> <p>【注意】 なお、本授業は、受講学生数の偏りを避けるため、受講学生数が35名程度に制限される。受講希望学生は4月7日(土)の免許課程オリエンテーションに出席することが求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の授業:生徒の状況と教授者の役割 2. 教授内容の検討(1): 指導要領と教科書の種類 3. 教授内容の検討(2):指導要領と言語材料 4. 教育補助機器等の使用練習: LL, CALL, PCソフトウェア 5. 指導案の書き方:教材内容と指導の進め方 6. 模擬授業(1): 本文への導入を中心に 7. 模擬授業(2): 本文の概要の把握を中心に 8. 模擬授業(3): 本文の要点の把握を中心に 9. 模擬授業(4): 新語(発音・熟語を含む)を中心に 10. 模擬授業(5): 文型・文法事項を中心に 11. 模擬授業(6): 言語活動を中心に 12. 模擬授業(7): コミュニケーションを中心に 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: ハンドアウト, 講義支援システム, 参考文献: 『新学習指導要領に基づく英語科教育法の構築と展開』(現代教育社), 『英語教育の基礎知識 教科教育法の理論と実践』(大修館), 『英語科教育実習ハンドブック』(大修館書店)</p>		授業の準備状況, 授業における発表, 期末試験の成績, 出席状況を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数 2/3 以上の出席が必要とされる。	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法Ⅰ	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 日本における英語教育のさまざまな課題を知るとともに、中学・高校における授業を通じてそれらを解決する方法を探る。効果的であると考えられる指導法や評価方法を、文献や受講生間の議論・やり取りから考えていく。具体的な指導法のテクニック等を学び身につけることも、本授業の目的の一つである。</p> <p>[概要] 授業においては、「知る」、「考える」、「身につける」という一連の流れを重視する。 配布するプリントや紹介する書籍・ビデオを通じて、どのような英語教授法があるのかを知り、その長短所や改善点について受講生自らが積極的に考えることを期待する。そして、新しく知った教え方を実践できるようになることが望ましい。ただし、よりスキルを重視した「練習」は秋学期に集中的に行う。</p> <p>※ 受講定員が設けられているので注意すること ※ 4月7日（土）のオリエンテーションに参加すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+ビデオ鑑賞 2. 日本における英語教育の歴史（1）：その変遷 3. 日本における英語教育の歴史（2）：現状課題 4. 教授法（1）：練習方法の種類 5. 教授法（2）：効果的な導入方法 6. 教授法（3）：教科書の活用 7. 教授法（4）：教科書外教材の活用 8. 教授法（5）：メディア機器の活用 9. 評価方法（1）：相対評価と絶対評価 10. 評価方法（2）：絶対評価を行うために 11. 授業の組み立て方（1）：カリキュラムとシラバス 12. 授業の組み立て方（2）：指導案の作成 <p>※ 毎週木曜日の昼休みに、『達人』と呼ばれる中学・高校英語教師の授業や教授法のビデオを鑑賞する時間を設ける。（必修ではない。希望者のみ対象） 詳細については授業初回ガイダンスで説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業ガイダンスで指示する。 また、文献・インターネット検索により、受講生自身が積極的に情報収集を行うことも期待する。		出席+授業活動への参加度+期末試験により評価する。 特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 中学・高校における一時間の英語の授業を実践できる知識と技能を身につける。</p> <p>[概要] 受講生による模擬授業（micro-teaching）を中心に進めていく。 毎回出される「テーマ」に則り、（1）一時間分の授業の計画を立て、（2）指導案を作成し、（3）その一部を授業内で披露する。模擬授業は全員が学期内に複数回実施すること、指導案は作成するたびに提出することが課せられる。 各模擬授業に対して、担当教員と受講生が感想、アドバイスを与える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 授業の組み立て方：指導案の作成 3. 模擬授業（1） 4. 模擬授業（2） 5. 模擬授業（3） 6. 模擬授業（4） 7. 模擬授業（5） 8. 模擬授業（6） 9. 模擬授業（7） 10. 模擬授業（8） 11. 模擬授業（9） 12. 模擬授業（10）+まとめ <p>※ 毎週木曜日の昼休みに、『達人』と呼ばれる中学・高校英語教師の授業や教授法のビデオを鑑賞する時間を設ける。（必修ではない。希望者のみ対象） 詳細については授業初回ガイダンスで説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則使用せず。参考図書は、以下の二つ。 『教育実習生のための学習指導案作成教本英語科—中・高教育実習用』、『英語科教育実習ハンドブック』		出席+授業活動への参加度+授業指導案により評価する。 特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] これまでの言語教育における理論と実践方法の変遷をたどり、どのような試みがなされてきたかを概観し、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[概要] 文法中心の考えからコミュニケーション能力育成を重視した授業形態が求められているなど、近年、英語教育現場にさまざまな変化が生じている。学習者として自分が受けてきた英語教育方法とは違う考え方ややり方を理解し、対応できるようになるにはどうしたらよいか考える。 講義やビデオ教材などを用いながら、語学教育に関する基本的な考え方や指導方法を紹介する。また、実際に教材を作るなど実践的な面も取り入れていく。</p> <p>本年度の受講者の定員は35名。4月7日(土)の免許課程のオリエンテーションに必ず出席し登録申請用紙を提出すること。詳しくは掲示を見てほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 授業の進め方、研究課題について 2. 英語教師に望まれること 3. 日本における英語教育—変遷と現状— 4. Language Teaching Methodology (1) 5. Language Teaching Methodology (2) 6. Language Teaching Methodology (3) 7. Audio-Visual Aids (1) 8. Audio-Visual Aids (2) 9. Testing and Evaluation (1) 10. Testing and Evaluation (2) 11. Planning Lessons (1) 12. Planning Lessons (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは定めないが、参考文献を授業中に紹介する。授業の Web ページも参照のこと。		出席状況、レポートおよび期末試験による。但し、出席が授業回数の半分以下の場合は不可とする。	

03年度以降 02年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期の講義等を基に、授業一回分の指導案を作成し、その一部分を模擬授業として実践してみる。</p> <p>[講義概要] 模擬実習では1回分の授業の一部分を他の受講者を生徒に見立てて行うが、授業の全体像をまずしっかり捉えて欲しいので、video や DVD 教材を用いて1回分の授業の流れの組み立て方を学ぶ。 後半は、中学校または高等学校向けの学習指導案の作成とそれに基づく模擬実習を行う。実習とそれについての討議が中心となる。</p> <p>また、学外の公開研究授業を見学し、そのレポートを提出してもらう。詳しくは、授業時に説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 授業の進め方 (1) 3. 授業の進め方 (2) 4. 模擬実習 ① 5. 模擬実習 ② 6. 模擬実習 ③ 7. 模擬実習 ④ 8. 模擬実習 ⑤ 9. 模擬実習 ⑥ 10. 模擬実習 ⑦ 11. 模擬実習 ⑧ 12. 模擬実習 ⑨、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは定めないが、必要に応じて参考文献を紹介する。		平常点、レポートおよび模擬授業による。但し、出席が授業回数の半分以下の場合は不可とする。	

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based.</p> <p>As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p><i>The number of students for this class is limited to 35. Please attend the orientation on April 7th in order to register your choice of class.</i></p>		<p>Week 1: Course description & explanation. Assignment, reading.</p> <p>Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment.</p> <p>Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion, reading, assignment.</p> <p>Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion.</p> <p>Week 6: Theme: Testing and Surveys. Lecture, discussion, presentations, assignment.</p> <p>Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion.</p> <p>Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts.</p> <p>Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion, assignment, reading.</p> <p>Week 12: Planning a lesson. Lecture, discussion. First semester summary and review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment based on the handouts and lecture.	

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	Tim Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching, incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of the techniques and knowledge.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p><i>The number of students for this class is limited to 35. Please attend the orientation on April 7th in order to register your choice of class.</i></p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course, Sign-up for presentation schedule 2. Teaching Grammar – Lecture Activities 3. Teaching Grammar – Student Presentations 4. Teaching Grammar – Lecture Activities 5. Teaching Grammar – Student Presentations 6. Teaching Writing– Lecture Activities 7. Teaching Writing– Student Presentations 8. Teaching Listening– Lecture Activities 9. Teaching Listening– Student Presentations 10. Teaching Oral Comm. – Lecture Activities 11. Teaching Oral Comm–Student Presentations 12. Course Review, Make-up Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., A Training Course for TEFL. (Oxford Univ. Press) Handouts.		Your grade will be based in-class participation, a number of assignments, lesson plans, a presentation and a final paper.	

03年度以降 02年度以前	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 言語教育に携わっていく上で必要な基礎知識の学習と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考えていく。</p> <p><講義概要> フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方、などを紹介する。 主に講義形式となるが教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。 講義内容をまとめたノートを各自作成すること。</p> <p><注意> 教育実習を行う前に（3年次での）履修をお願いします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 5. 教材分析 1 6. 教材分析 2 7. 教室活動 1 8. 教室活動 2 9. 教材、教具の種類とその選択について 10. 授業実践のための準備とまとめ 教案の書き方 11. 評価について 12. まとめ <p>（順番は多少前後することがある）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席と授業参加態度重視。 授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。	

03年度以降 02年度以前	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点や問題点などについて考える。</p> <p><講義概要> 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める」 毎回、上記のような流れになる。短時間の模擬授業を数回行えるようにする予定。回数と持ち時間は受講者数によってかわるので秋学期の最初の授業時に決める。</p> <p><注意> 教育実習を行う前に（3年次での）履修をお願いします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：模擬授業のための準備 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. まとめ：教育実習のための注意点など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する。		出席と授業参加態度重視。 模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科教員の1日 2 社会科成立の背景と意義 3 社会科の教育課程とその変化(1) 4 社会科の教育課程とその変化(2) 5 社会科の教育内容(1) 地理的分野 6 社会科の教育内容(2) 歴史的分野 7 社会科の教育内容(3) 公民的分野 8 社会科の今日的課題(1) 国際化 9 社会科の今日的課題(2) 社会の変化 10 社会科の今日的課題(3) 環境 11 社会科の今日的課題(4) 人権 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説(平成10年12月)社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 02年度以前	社会科教育法 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法IIでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6 教材の収集と利用（3）インターネット等 7 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 8 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 9 シミュレーション教材の利用 10 臨地学習の意義と計画 11 臨地学習の実践 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 02年度以前	社会科教育法 III	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法IIIでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校カリキュラムの中の社会科 2 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3 地理的分野の内容構成 4 歴史的分野の内容構成 5 公民的分野の内容構成 6 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7 模擬授業（1） 8 模擬授業（2） 9 模擬授業（3） 10 模擬授業（4） 11 模擬授業（5） 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	地理・歴史科教育法 I	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育実習においては、学生であっても生徒の学習活動等に「教員」と同じような責任をもって業務を行わなければならない。そして、その基本は実際の授業をいかに構成しかつ実践するかにあると言える。授業をおろそかにすると生徒の信頼を獲得できない。本講座では、教員として授業を創っていく際に必要なバックグラウンドとしての理論的知識と授業を想定した実践的方法を明らかにし、教員になるための資質を向上させる。</p> <p>【概要】 世界史教育の立場から地理・歴史科の教育法にアプローチする。歴史学と歴史教育の関連、世界史教育の意義、学習指導要領と世界史教育、教員としての資質やその研鑽方法、教材研究のあり方、学習指導案の作成方法、実際の授業を想定したパフォーマンスなどについて明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史認識と歴史教育 2. 歴史教育の今昔 3. 学習指導要領の編成 4. 世界史必修化の意義と課題 5. Specialist or Generalist ? 6. 教材研究によるバックグラウンドの形成 7. 授業をつくる<基礎>① (授業のスタイルとアイテム) 8. 授業をつくる<基礎>② (学習指導案の作成と事例研究) 9. 授業をつくる<応用>① (Presentation & Performance) 10. 授業をつくる<応用>② (導入と展開の事例研究) 11. 評価 (自己評価・考査・レポート・成績など) 12. 教師像の総合的理解のために 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、プリントやプレゼン資料を用意する。実際の授業において随時提示し紹介する予定である。		授業に対する取り組み姿勢 (出席、態度等) および小論文またはレポートによって評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	地理・歴史科教育法 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>*高等学校「地理・歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育の目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 地理的見方・考え方について 5. 地図・地球儀の扱い方（1） 6. 地図・地球儀の扱い方（2） 7. 野外観察・調査の意義と計画 8. 野外観察の実践 9. 系統地理の学習指導 10. 地誌の学習指導 11. 主題的方法の学習指導 12. 授業環境の整備、学習指導計画と学習指導案 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 02年度以前	地理・歴史科教育法 III	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 学習指導要領と教科書叙述③ 8. 授業実践事例研究① 9. 授業実践事例研究② 10. 授業実践事例研究③ 11. 授業実践事例研究④ 12. 歴史の授業づくり（まとめにかえて） <p>なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。</p>		<p>授業への参加状況とレポートなどを総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	公民科教育法 I	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会科・公民科教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義・目的と課題について考察する。また、「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標と科目編成、内容とその取り扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。</p> <p>テキストや配布プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育にかかわる今日的话题や課題等については、討論会やディベート等を行う機会を持つことも考えている。</p>		<p>1 社会科・公民科教育の変遷</p> <p>①社会科の成立と意義</p> <p>②社会科教育の変遷と公民教育</p> <p>③社会科教育の再編成と公民科の創設</p> <p>2 11年版「学習指導要領公民」の研究</p> <p>④公民科の目標</p> <p>⑤～⑧公民科各科目の内容とその取り扱い</p> <p>⑨公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項</p> <p>⑩公民科各科目にわたる内容の取り扱い</p> <p>3 授業実践事例研究 I</p> <p>⑪学習指導案・評価問題の作成</p> <p>⑫公民科各科目の授業づくり</p>	
		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版		レポート、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降 02年度以前	公民科教育法 II	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。</p> <p>公民科教育法IIでは、公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、受講生の意欲的な授業参加、取り組みを期待する。</p> <p>なお、現職教員による示範授業を予定しているので公民科教育にかかわる現状や課題等についても積極的に発言し、自らの公民科の授業づくりに生かしてほしい。</p>		<p>1 公民科の指導法</p> <p>①指導計画の作成と授業展開</p> <p>②学習指導の工夫</p> <p>③評価の工夫</p> <p>2 授業実践事例研究 II</p> <p>④～⑤授業実践事例研究</p> <p>⑥～⑫模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版 参考書 魚山・小泉他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院		レポート、学習指導案、模擬授業、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降 02年度以前	情報科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法 I では、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 情報科教材研究（1）情報 A 8 情報科教材研究（2）情報 B 9 情報科教材研究（3）情報 C 10 情報科教材研究（4）専門教科「情報」 11 情報科教材研究（5）専門教科「情報」 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 02年度以前	情報科教育法 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法 II では、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、先進校授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 模擬授業（1） 9 模擬授業（2） 10 模擬授業（3） 11 模擬授業（4） 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 02年度以前	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。 そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案を作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力とは何か 2 中学校教育の教育課程 3 教科と総合的な学習 4 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(1) 5 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(2) 6 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(3) 7 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(4) 8 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(5) 9 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(6) 10 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(7) 11 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(8) 12 作成した学習指導案の発表・検討 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

03年度以降 02年度以前	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教科教育法特論 II	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Language and language learning 3. Classroom management 4. Listening 5. Speaking 6. Pronunciation 7. Grammar 8. Vocabulary 9. Reading 10. Writing 11. Presentations 12. Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TBA 講義支援システム使用		class participation, reading assignments and projects	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教科教育法特論 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 英語学科以外の外国語学部の学生で英語の免許取得を目指す人が対象となるコースである。詳しくは「履修の手引」を参照のこと。 英語という言語を、教える側の視点から捉え直し、教育現場で役立つ知識を身につけ、その指導方法を考える。</p> <p>[講義概要] 4技能と文法指導のほか、第一言語と第二言語習得、動機づけ、学習スタイルと学習方略など言語習得と関連した分野にも触れる。英語力をつけるためにも、テーマに関連した英文の論文を何篇か読む。 各テーマについての講義と受講者の研究発表・討論を交えて進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Second Language Acquisition 3. Motivation 4. Learning Style and Learning Strategies 5. Teaching Pronunciation 6. Teaching Pronunciation (Presentation & Discussion) 7. Teaching Listening & Speaking 8. Teaching Listening & Speaking (Presentation & Discussion) 9. Teaching Reading & Writing 10. Teaching Reading & Writing (Presentation & Discussion) 11. Vocabulary and Corpus Linguistics 12. Teaching Grammar 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に定めない。 参考文献はトピック毎に紹介する。</p>		<p>平常点（出席状況、課題についての口頭発表とレポートなど）と期末のレポートによる。</p>	

03年度以降 02年度以前	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義は、①道徳に関する歴史、②昨今の教育改革の中での位置付け、③そもそも道徳は教えられるのかという大きく分けて3つの「理論編」の講義と、授業案を作り、模擬授業を行うという「実践編」との2つの柱で構成される。これにより、道徳に関する知識と実践力を身につけてもらうことを目的としている。</p> <p>講義概要 上記「目的」のとおり、前半における理論編においては講義中心で行う。後半の授業案・模擬授業については数名のグループをつくり、自身で教材を探し、授業を構成してもらう。 受講人数によるが、いくつかのグループは実際に模擬授業をしてもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス ～高校での道徳必修化をどう考えるか～ 2. 家庭教育における道徳的な課題 3. 学校教育における道徳的な課題 4. 学校における道徳教育の歴史（1） 5. 学校における道徳教育の歴史（2） 6. 学校における道徳教育の歴史（3） 7. 小テスト 8. 授業案をつくる（1） 9. 授業案をつくる（2） 10. 授業案の検討（1） 11. 授業案の検討（2） 12. 模擬授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山崎英則（2004）『新・道徳教育論』ミネルヴァ書房		学期中に行われる小テスト、および授業案による。発言やグループワークなど授業への貢献も加味したい。	

03年度以降 02年度以前	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、児童生徒の社会性やモラルの低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の道徳教育体験を振り返る 2 道徳とは何か(1) 3 道徳とは何か(2) 4 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6 「心のノート」について考える 7 教育における「いのち」の意味 8 「いのち」を考える授業(1) 9 「いのち」を考える授業(2) 10 「いのち」を考える授業(3) 11 学習指導案の作成(1) 12 学習指導案の作成(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 道徳編』『心のノート 中学校』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	特別活動	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史的変遷等について考察するとともに、「高等学校学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等について具体的に検討する。また、「特別活動」の内容に関する具体的な進め方や今日的な課題への対応等について検討し「特別活動」に関する実践的な指導力を養うことを目的とする。</p> <p>テキスト、配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、実践事例研究の場面では研究班を編成してディベートやディスカッション、ロールプレイングなどを活用して、実践的な指導力を養う機会を持つ予定である。</p>		<p>1 特別活動の意義</p> <p>①学校教育と特別活動</p> <p>②特別活動の歴史的変遷</p> <p>2 特別活動の目標と内容</p> <p>③特別活動の目標と基本的性格</p> <p>④特別活動の指導計画・指導案の作成</p> <p>⑤特別活動の指導計画・指導案の作成</p> <p>⑥特別活動の評価</p> <p>⑦ホームルーム(学級)活動の特質と活動内容</p> <p>⑧生徒会活動の特質と活動内容</p> <p>⑨学校行事の特質と活動内容</p> <p>3 特別活動の実践事例研究</p> <p>⑩ホームルーム(学級)活動の指導と展開</p> <p>⑪生徒会活動の指導と展開</p> <p>⑫学校行事の指導と展開</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文科省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』東山書房</p> <p>参考文献 山口満編『特別活動と人間形成』学文社</p>		<p>学習指導案、レポート、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	特別活動	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、児童生徒の人間関係の希薄化、集団離れ、社会性の低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の特別活動体験を振り返る 2 現代の人間形成と特別活動(1) 3 現代の人間形成と特別活動(2) 4 教育課程における特別活動の位置と役割(1) 5 教育課程における特別活動の位置と役割(2) 6 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(1) 7 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(2) 8 特別活動の実践事例の検討(1) 9 特別活動の実践事例の検討(2) 10 特別活動の実践事例の検討(3) 11 話合い活動の実践(1) 12 話合い活動の実践(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

03年度以降 02年度以前	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習目標：教育職の重要性を再検討し、自身のコミュニケーション能力を確認する。</p> <p>概要：コミュニケーション、教育・学習、教師の役割などを関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、グループによる討議やレポートを作成する。</p> <p>※詳細は開講時に明示する。</p>		<p>① プロローグ</p> <p>② コミュニケーションと教育・学習</p> <p>③ 教師の役割</p> <p>④ 授業を問いかける</p> <p>⑤ 視聴覚メディア</p> <p>⑥ ビデオ教材による教育現場</p> <p>⑦ 校外専門家による授業</p> <p>⑧ グループ討論</p> <p>⑨ 授業設計</p> <p>⑩ 測定と評価</p> <p>⑪ 教育方法のイメージ</p> <p>⑫ エピローグ</p> <p>※詳細は授業時に配付する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐賀啓男編著（2002）『視聴覚メディアと教育』樹村房、¥1.800		出席、個人レポート、グループレポート、定期試験の総合	

03年度以降 02年度以前	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業の構成と展開をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教育実習生の授業 4 ベテラン教師の授業 5 教材研究とは何か 6 教材研究の事例の検討(1) 7 教材研究の事例の検討(2) 8 教材研究の事例の検討(3) 9 教材研究とメディア 10 林竹二の授業論(1) 11 林竹二の授業論(2) 12 林竹二の授業論(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての検討を通して、課題解決に向けての具体的な方策を考えるとともに、実践への心構えや指導のあり方等について学習することにする。</p> <p>配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、講義内容によってはディベートやディスカッション、事例研究プレゼンテーションなど、さまざまな学習形態で実践的な指導力を養うための工夫をする予定である。</p>		<p>① 生徒指導の意義と機能</p> <p>② 青年期と生徒理解</p> <p>③ 生徒指導の方法原理と生徒指導の進め方</p> <p>④ 生徒指導計画と組織・役割</p> <p>⑤ 生徒指導と教育課程</p> <p>⑥ 体罰と懲戒</p> <p>⑦ 健康・安全に関する指導</p> <p>⑧ 在り方生き方教育と進路指導</p> <p>⑨ ～⑫生徒指導に関する事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校則問題 ・ 不登校といじめ ・ 飲酒・喫煙問題 ・ 性非行と薬物乱用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 文科省『生徒指導の手引き』、『学校における教育相談の考え方・進め方』、『個性を生かす進路指導を目指して』		事例研究、プレゼンテーション、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降 02年度以前	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	生徒指導法	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>生徒指導については、高校までの学校生活を通して、生徒の視点から内容が理解されている。しかし、教師の視点による生徒指導の内容や方法についての理解は必ずしも十分ではない。</p> <p>そこで、この授業では、生徒指導という教師の仕事（教育作用）の重要性を認識するとともに、生徒指導の方法を知ること为目标としたい。</p> <p>講義概要</p> <p>生徒指導の意義と目的、生徒指導の内容・領域、生徒指導の組織と指導体制、生徒指導と教育課程との関連、児童生徒理解の進め方、実際の指導方法（集団指導法と個別指導法）、進路指導などについて取り上げる。</p>		<p>全 12 回の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義と課題 2 生徒指導と教育課程との関連 3 生徒指導の組織と計画 4 児童・生徒理解 I 5 児童・生徒理解 II 6 集団指導法 I 7 集団指導法 II 8 個別指導法 I 9 個別指導法 II 10 問題行動の理解と指導 I 11 問題行動の理解と指導 II 12 進路指導 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教師養成研究会・江川玫成編『生徒指導の理論と方法 改訂版』学芸図書、2000年。		レポート	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリングとは、「相談」活動であり、対人援助の方法の一つである。</p> <p>また学校は「教育」を通して個人の能力と人格発達を促進する場・機関である。</p> <p>学校に専門的なカウンセリングを導入することにより、個人個人が異なる生徒・学生の成長を、より有効に促進していこうとする考えが現れるのは当然であろう。</p> <p>講義ではカウンセリングの考え、基本的な技法、学校でのニーズと問題点、いじめ・不登校などの対処法などを、講義、実習、討論などを通して検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングとは 2. 話すことと聞くこと 3. カウンセラーの役割 4. 学校という場・組織 5. 生徒・学生の人格発達と課題 6. 学校カウンセリングの効用と限界 7. カウンセリングの実際 (1) 8. カウンセリングの実際 (2) 9. カウンセリングの実際 (3) 10. いじめ 11. 不登校 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、適宜、参考文献一覧とプリントを配布する。		出席、授業中に出す課題、期末定期試験による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず初めに、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>次に、学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特に、いじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。</p> <p>さらに、心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>まず、カウンセリングとは何かということについて全体的な知識を深める。</p> <p>次に、それをもとに、学校でカウンセリングをどのように利用し、それによって生徒にどのような意味や効果があるかについて多方面から検討していく。</p> <p>それらをふまえて、現代学校で問題となっている事柄、あるいは生徒自身の悩みを具体的にどのように解決していくかを考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの目的とその意義 2. カウンセリングの理論 3. カウンセリングの技法 4. 学校カウンセリングの目的と特徴 5. 学校カウンセリングの方法 6. 中学生・高校生と学校カウンセリング 7. 生徒の問題行動 8. 生徒の精神衛生 9. 現代青年の悩み 10. 青年期の間人間関係 11. 心理テストの理論 12. 心理テストの実施 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「カウンセリングへの招待」 瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数に限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>① カウンセリングと学校カウンセリング ② 中高生徒の諸問題 ③ 生徒理解と援助のポイント ④ カウンセリングの実際 ⑤ カウンセリングの理論と技法 ⑥ キャリアカウンセリング、心理テスト ⑦ 保護者、校内組織その他の活用と連携</p>		<p>1 カウンセリングと学校カウンセリング 2 カウンセラーの役割、教師の役割 3 生徒理解と援助のポイント（1） 4 生徒理解と援助のポイント（2） 5 カウンセリングの実際（1） 6 カウンセリングの実際（2） 7 カウンセリングの理論と技法（1） 8 カウンセリングの理論と技法（2） 9 キャリアカウンセリングの基礎 10 カウンセリングと心理テスト 11 保護者への援助：コンサルテーション 12 校内組織その他の活用と連携／まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。</p> <p>本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育における総合的学習の意義 2 獨協大学から世界の課題を考える（環境） 3 グループワーク（フィールドワーク） 4 グループワーク 5 グループワーク 6 発表 7 獨協大学から世界の課題を考える（社会） 8 グループワーク（体験学習） 9 グループワーク 10 グループワーク 11 発表 12 まとめ <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に個別に示される。		出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。	

03年度以降 02年度以前	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義は、教職を目指す学生が「総合的な学習の時間」など課題探求型の授業を構成できるように、基本的なスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講義の目的からもわかるように、課題探求型の学習の方法を学んでもらうために、①教育改革に関するトピックをひとつ選び、②基本的にはそれらを図書館での資料収集、インタビュー調査等の方法で調べ、③まとめるという作業を行ってもらい、折々にプレゼンの機会を設け、わかりやすいプレゼンのやり方等も探っていく。 最後に自身で調べた内容についてレポートにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス・グループ分け 2. 図書館ガイダンス 3. 図書館での資料収集 4. プレゼンテーション (1) 5. プレゼンテーション (2) 6. インタビュー調査 7. まとめの作業 (1) 8. まとめの作業 (2) 9. プレゼンテーション (3) 10. プレゼンテーション (4) 11. プレゼンテーション (5) 12. ディスカッション <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		最終のレポート、授業への出席・貢献等を総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。</p> <p>①「総合的な学習の時間」の位置づけと「国際理解」の基本的課題について提示する。</p> <p>②「食を通じた国際理解教育」をテーマとし、対象国を定めグループを編成し、グループごとにその国・地域の「食」およびその文化的、社会的、経済的背景を調べる。</p> <p>③グループ構成を組み替え、対象国のすべての人々が参加できるパーティーのメニューを考えるなかで、国際理解教育の理念を具体的に把握する。</p> <p>④日本の子どもたちの現状を外国の子どもたちと比較しながら、各自が情報収集を行い、グループ内で発表・討議を行う。</p> <p>⑤両者の比較検討を行い、グループごとにその検討の結果を発表する。</p> <p>⑥全体討議を行う。</p> <p>⑦このほか、参加型のアクティビティを体験する。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 グループ編成</p> <p>3 グループによる計画の策定</p> <p>4 グループ・ワーク（各国の「食」）</p> <p>5 グループ・ワーク（各国の「食」）</p> <p>6 中間発表</p> <p>7 グループ・ワーク（メニュー作成）</p> <p>8 グループ・ワーク（メニュー作成）</p> <p>9 アクティビティ</p> <p>10 グループ発表</p> <p>11 グループ発表</p> <p>12 全体討議（ふりかえり）</p> <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		グループ発表と自己評価等の個別最終レポート、ならびに、出席によって評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的と概要</p> <p>受講者はグループで身近な今日的課題を取り上げて、問題の把握、分析、考察をおこなう。さらに、それらの研究成果をまとめて発表する。また、グループ発表について相互に評価をおこなう。これらの授業を通して、さまざまな分野の今日的課題に興味を持ち、視野を広げ、多角的な視点でものごとを捉える力を養ってもらおう。受講者には、授業に主体的に取り組み、自ら学び考える姿勢が要請される。</p> <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>		<p>以下の計画で授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習の意義と目的 2. 研究テーマの設定 3. グループワーク：資料の収集と整理 4. グループワーク：資料の収集と整理 5. グループワーク：資料の分析 6. グループワーク：資料の分析 7. グループワーク：資料のまとめ 8. グループワーク：資料のまとめ 9. 成果発表 10. 成果発表 11. 相互評価とディスカッション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は講義において紹介する。		出席、レポート内容、授業への参加態度により総合的に評価する。	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>演習目的</p> <p>生徒指導、教育課程、特別活動等について小集団学習を実施し、課題発見および問題解決の演習を行う。</p> <p>そのことを通して、教育問題への関心を高め、意欲を喚起し、教育研究を行う態度を育成する。</p> <p>演習概要</p> <p>生徒指導を研究するグループ、教育課程を研究するグループ、特別活動を研究するグループに分かれて演習を行う。</p> <p>まず、研究をするための構想発表を行って課題を発見し、問題解決に取り組んだ成果を中間発表し、総合演習で各グループのメンバーが学習した成果を最終発表でまとめる。</p>		<p>全 12 回の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の紹介 2 グループづくり 3 生徒指導グループの構想発表 4 教育課程グループの構想発表 5 特別活動グループの構想発表 6 生徒指導グループの中間発表 7 教育課程グループの中間発表 8 特別活動グループの中間発表 9 生徒指導グループの最終発表 10 教育課程グループの最終発表 11 特別活動グループの最終発表 12 レポート集の作成 <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		レポート	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 研究成果の発表(1) 11 研究成果の発表(2) 12 グループ研究の評価と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価 *春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 現代の教育的諸問題の中から進路指導を取り上げ、多面的な視点から分析・検討する能力及びプレゼンテーション能力を養うとともに、進路指導のあり方について、個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間などで扱う方法を考えていくことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 1) 進路指導をめぐる基本的課題について提示する。 2) 学生各自が興味関心に応じて基本的課題を選び、課題ごとにグループを編成する。 3) グループごとに資料収集、討議を行う。 4) グループごとに検討の成果を発表する。 5) 全体討議を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 進路指導をめぐる基本的課題の解説とグループ編成 3. グループによる研究計画の作成 4. 研究計画発表 5. グループワーク 6. グループワーク 7. 中間発表 8. グループワーク 9. グループワーク 10. グループ発表 11. グループ発表 12. 全体討議 <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。		グループによる発表(50%)、レポート(20%)、出席(30%)によって評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	総合演習	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本クラスは、教員の資質として必要なクラスマネージメント、人間関係形成のためのノウハウを学ぶことを目的とします。</p> <p>クラスでは、グループワークを中心にレクリエーションスポーツ種目を利用した行事の企画、運営、実施を学生が行います。各グループのイベントを実施し、他グループによる評価をうけ、よりよい実施案を作成します。</p> <p>イベント企画例 ペタンク大会 キャンプファイヤー キャンドルサービス 小運動会 ゲーム大会 ドッジボール大会等</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションとチーム編成 2 イベントの企画のしかた 3 イベントの企画作成 4 イベントのプレゼンテーション第1回 5 イベントのプレゼンテーション第2回 6 各グループによるイベントの実施第1回 7 各グループによるイベントの実施第2回 8 各グループによるイベントの実施第3回 9 各グループによるイベントの実施第4回 10 各グループによるイベントの実施第5回 11 ふりかえりと相互評価 12 まとめ <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布します。		出席状況、取り組み姿勢、レポート	

03年度以降 02年度以前	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業のスキル 7 授業の評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』、文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』、『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>			

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向などについて検討し、それを踏まえた指導のあり方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるように工夫したい。</p> <p>教育課題検討会や学習指導案作成、模擬授業など受講者中心の授業になるので積極的・主体的な授業参加を期待したい。</p> <p>なお、授業の後半で現職の教員を迎えて実習生としての心構えや事前準備等について伺う予定である。</p>		<p>1 教育実習の意義 ①教育実習の意義と目標 ②教育実習の形態</p> <p>2 教育実習の内容 ③学校運営組織と校務分掌 ④生徒理解と生徒指導 ⑤教育課程と学習指導要領 ⑥学習指導と教材研究 ⑦道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導</p> <p>3 教育実習の実際 ⑧教育実習の日々 ⑨学習指導案の作成 ⑩学習指導の実際 ⑪教師としての勤務と実習生</p> <p>4 現代の教育課題と教師の役割 ⑫学校の課題と教師の役割</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』 獨協大学		レポート、学習指導案、出席状況等で総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。授業内容では、学生同士の討論を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 学習指導案の作成(1) 6 学習指導案の作成(2) 7 模擬授業(1) 8 模擬授業(2) 9 模擬授業(3) 10 模擬授業(4) 11 模擬授業(5) 12 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』。 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席とレポート（指導案を含む）による総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義では、教育実習を行うにあたり必要とされる資質のうち、特に授業を取り上げ、授業案を書き、実際に授業する点での基本的なスキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>学ぶということばは「まねぶ」であるといわれる。講義の前半はビデオを中心に実際に行われている授業をもとにして真似できる点、改善できる点等を考える。後半では、実際にそれぞれ授業案を作成し、それに基づいた授業を展開してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス ～教育実習生の日～ 2. 授業を観察する 3. よい授業とは？ (1) 4. よい授業とは？ (2) 5. 授業案をつくる <p>～12. 模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		小レポートと授業案、模擬授業と、授業の出席・貢献度（発言等）を総合的に判断する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業のスキル 7 授業の評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (8割以上)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師となる上での資質・能力の向上とを図ること、およびその方法を考えることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験発表 2 教育実習レポート作成 3 体験・レポート等による課題析出 4 課題の解決(1)グループ討論 5 課題の解決(2)グループ討論 6 課題の解決(3)グループ討論 7 課題の解決(4)グループ討論 8 学習指導案作成(1) 9 学習指導案作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』。 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席、課題、レポートによる総合評価。	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義では、教育実習を終えた学生が対象である。したがって、自身の実習の振り返りと、教師を目指すにあたっての知識の再確認を目的としている。</p> <p>講義概要</p> <p>まず前半2回においては、①授業、②生徒指導ほかに分け、それぞれグループでディスカッションを行う。後半では、現在教師や学校が抱える問題について講義とディスカッションを織り交ぜながら知識の再確認を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス 2. 教育実習を振り返る（1） ～授業編～ 3. 教育実習を振り返る（2） ～生徒指導ほか編～ 4. 現代社会病理と学校 5. 学力問題に対する教員の在り方 6. 教員養成制度と求められる教師像 7. 近年の教育改革 8. スクールリーダーとマネジメント 9. 学校を支えるスタッフ 10. 教員に関する法規 11. 教員と研修 12. 教員になるために 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教育実習日誌を持参すること		小レポートと授業案、授業の出席・貢献度（発言等）を総合的に判断する。	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	介護ボランティアの理論と実践	担当者	新井 利民
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程の介護等体験を履修する学生の事前学習として、また社会福祉やボランティア活動に何らかの関心のある学生に焦点をあて、現代社会において人が人を支え、援助する意味と役割について、自分で考え、行動する力を養うことを目的とします。</p> <p>まず「介護」「介助」「援助」「支援」などの言葉があげられる「ケア」(Care)という概念を検討し、ケアのフィールド、担い手、内容について概観します。</p> <p>その上で、ケアの担い手の一部である「市民活動」「ボランティア活動」について、何らかの援助が必要な人々のニーズと、それらの人々に対する市民活動・ボランティア活動としてのケアの役割について考えます。</p> <p>さらに、ケアを行ううえで必要な「価値観の尊重」「信頼関係を結ぶコミュニケーション」「多面的理解」などの考え方や実際を検討します。</p> <p>グループ討議や演習を通じて、多様なケア観・ボランティア観を共有することで、一人の市民として実際の活動へ挑戦するため足がかりや、普段の活動への振り返りが出来ればと思います。グループ活動への主体的な参加を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ケア」の概念をひも解く 2. 高齢福祉の現場とケア① 3. 高齢福祉の現場とケア② 4. 障害福祉の現場とケア① 5. 障害福祉の現場とケア② 6. 児童福祉の現場とケア 7. 地域における他の福祉実践におけるケア 8. ケアの担い手と「ボランティア」「市民活動」 9. 価値観を尊重する 10. 信頼関係を結ぶコミュニケーション 11. 相手を多面的に理解する 12. 「体験」からいかに学ぶか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献</p> <p>金子郁容著『ボランティア』岩波書店(1992)</p> <p>ミルトン・メイヤロフ著『ケアの本質』ゆみる出版(1998)</p> <p>諏訪茂樹著『対人援助とコミュニケーション』中央法規(2001)</p>		評価方法：平常授業の課題及び期末レポートにて評価	

03年度以降 02年度以前	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川 孔美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>すでに何らかの「介護」を必要とする個人にとってだけでなく、現在健康である個人にとっても、人間の一生の中で「介護」を必要とする時期がどこかにあるとってよい。</p> <p>本講義では、「介護」に焦点をあて、介護の本質と理念、援助の原理について基本を踏まえつつ、生活問題・障害を抱える人々の介護ニーズについて理解を深めることを目標とする。また、実際の「介護」のあり方（実技）や「介護」において議論されている社会的諸問題について視覚教材や事例に基づくグループ討論によって視野の幅を広げ、実際のボランティアや介護等体験など介助を必要とする個人と直接触れ合う機会に生かすことのできる具体的な援助方法、対応のあり方について学ぶ。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～4 介護の定義、制度、倫理、原則 ・「介護」の対象と目的 ・「介護」「ケア」の本質</p> <p>5～9 介護技術への理解 食事、排泄、衣服の選択、着脱、褥創予防、車椅子介助、移動の際等の援助方法、コミュニケーション</p> <p>10～12 利用者への理解及びまとめ 認知症高齢者、障害を持つ利用者へのケアの特性、症状や経過について、リハビリ、回想法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定なし		筆記試験 平常授業の不定期課題（レポート提出）	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	日本史概説Ⅰ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の日本史研究では、日本列島に展開した多角的、多面的な歴史像の捉えなおしが図られ、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況に基づき、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料に着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ的に—日本とは？歴史とは？— 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史—① 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史—② 4. 古代の社会①—弥生のムラ①— 5. 古代の社会②—弥生のムラ②— 4. 古代の社会③—ワカタケル大王の時代— 5. 中世の社会①—絵図にみる中世の村①— 6. 中世の社会②—絵図にみる中世の村②— 7. 中世の社会③—洛中洛外図をよむ①— 8. 中世の社会④—洛中洛外図をよむ②— 9. 中世の社会⑤—洛中洛外図をよむ③— 10. 近世の社会①—江戸図屏風をよむ①— 11. 近世の社会②—江戸図屏風をよむ②— 12. まとめ <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

03年度以降 02年度以前	日本史概説Ⅱ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本史概説Ⅰに続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 中・近世移行期の対外関係①—日本型華夷秩序の形成と展開①— 4. 中・近世移行期の対外関係②—日本型華夷秩序の形成と展開②— 5. 近世の対外関係①—鎖国論をめぐって①— 6. 近世の対外関係②—鎖国論をめぐって②— 7. 近世の対外関係③—鎖国論をめぐって③— 8. 近代の対外認識①—岩倉使節団をめぐって①— 9. 近代の対外認識②—岩倉使節団をめぐって②— 10. 国民国家形成の世紀を問う① 11. 国民国家形成の世紀を問う② 12. まとめ（エピローグ的に） —歴史学と歴史教育— <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最近の中国事情を紹介し、その後中国の歴史、特に新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を概観する。</p> <p>1990年代以降の経済発展とそれに伴う社会の急激な変貌は、従来の中国社会像を根底から揺さぶり、我々に新たな中国認識の構築を迫っているように思える。</p> <p>一体、中国社会とはどのような社会なのか？</p> <p>中国古代史を概観しながらこの問題の一端に触れてみたい。</p>		<p>1, オリエンテーション</p> <p>2, 現代中国事情 (地理的概況など)</p> <p>3, 現代中国事情 (歴史的に見た中国社会の特徴)</p> <p>4, 中華文明の形成 (新石器時代殷・周)</p> <p>5, 氏族社会の崩壊と小農民の登場 (春秋・戦国)</p> <p>6, 皇帝支配の成立と郷里社会 (秦漢帝国)</p> <p>7, 豪族の台頭と郷里社会の変質 (後漢・三国)</p> <p>8, 農民支配の再編 1 (魏晋)</p> <p>9, 農民支配の再編 2 (南北朝)</p> <p>10, 律令国家の登場 (隋・唐)</p> <p>11, 唐帝国の滅亡</p> <p>12, まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一著『中国通史』(講談社学術文庫) 他は講義中に配布するプリント等による。		出席状況と試験により評価する	

03年度以降 02年度以前	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ諸国の「近代化」課程を、社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降の日本にいかなる影響を与えてきたか、という点もあわせて論じたい。</p> <p>16世紀頃～19世紀までの歴史事象の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項を選んで取り上げる。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下記の参考文献中1～2冊は目を通してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』【増補版】（ミネルヴァ書房） ・望田幸男編『西洋の歴史基本用語集』（ミネルヴァ書房） ・D・シュヴァニツ『ヨーロッパ精神の源流』（世界思想社） ・成瀬 治『世界史の意識と理論』（岩波書店） 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷（1）古代～中世 3. 歴史叙述・歴史理論の変遷（2）近代以降 4. 「近代」の概念について 5. 宗教改革～宗教改革にみる近代性と、インパクトについて 6. 同上 7. ヨーロッパ市民革命～英仏両革命の比較 8. 同上 9. 産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義の必然性について 10. 同上 11. 「近代」総括 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の参考文献を参照。		試験を実施する。＜論述形式、ノート持込不可＞	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	地理学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義の概要） 2. 地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3. 地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4. 地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5. 東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6. 東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地 7. 東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8. 東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9. 東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10. 東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール 11. 東京・関東の気候的特色(2)観測データと景観から気候を読む 12. 東京・関東の気候的特色(3)都市気候 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03年度以降 02年度以前	地理学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学の歴史（1） 2. 地理学の歴史（2） 3. 地理学の歴史（3） 4. 地理学の主要概念（1）環境 5. 地理学の主要概念（2）景観 6. 地理学の主要概念（3）場所と立地（1） 7. 地理学の主要概念（4）場所と立地（2） 8. 地理学の主要概念（5）伝播 9. 地理学のトピックス（1）メンタルマップ 10. 地理学のトピックス（2）時間地理学 11. 地理学のトピックス（3）地理情報システム 12. 地理学のトピックス（4）教育と地理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03年度以降 02年度以前	地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。＊受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー系統地理学と地誌学 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎（2）統計の利用 5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現 6. 地域分析の基礎（4）空間分析 7. 地域分析の基礎（5）地域構造 8. 日本地誌（1）自然環境 9. 日本地誌（2）風土と地域文化 10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造 11. 日本地誌（4）産業と地域変容 12. 日本地誌（5）日本の地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03年度以降 02年度以前	地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、ヨーロッパを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>＊受講者は地図帳を持参すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏 4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済 5. ヨーロッパ地誌（1）ヨーロッパとは 6. ヨーロッパ地誌（2）自然景観 7. ヨーロッパ地誌（3）文化の諸相（1） 8. ヨーロッパ地誌（4）文化の諸相（2） 9. ヨーロッパ地誌（5）文化の諸相（3） 10. ヨーロッパ地誌（6）国家とEU 11. ヨーロッパ地誌（7）産業と経済 12. ヨーロッパ地誌（8）地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03年度以降 02年度以前	法律学概説Ⅰ 法律学概説（通年）	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論、および社会のさまざまな場面と法に関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7. 憲法の基本原理（2）－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8. 国の統治機構 9. 平等権 10. 自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 11. 自由権（2）－人身の自由－ 12. 社会権 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降 02年度以前	法律学概説Ⅱ 法律学概説（通年）	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法学a」で取り扱いますので、「法学a」を受講してから本講義を受講することを強く推奨します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 裁判の仕組み（1） 2. 裁判の仕組み（2） 3. 財産関係と法（1） 4. 財産関係と法（2） 5. 経済取引と法（1） 6. 経済取引と法（2） 7. 家族と法（1） 8. 家族と法（2） 9. 犯罪・刑罰と法（1） 10. 犯罪・刑罰と法（2） 11. 医療と法（1）－医療提供の理念－ 12. 医療と法（2）－医療過誤－ <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降 02年度以前	政治学概説 I 政治学概説 (通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治社会の構成主体である市民の教養としての政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の理論的修得を意識した構成である。</p> <p>現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。</p> <p>テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治とは何か 2. 権力の諸相 3. 構造としての権力 4. 古典的リベラリズム 5. 人格発展のリベラリズム 6. 社会有機体論 7. 福祉国家とその批判 8. 自由と自律 9. 平等と正義 10. リバタリアニズムとコミュニタリアニズム 11. 古典的デモクラシー論と大衆デモクラシー 12. 参加とデモクラシー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
川崎修・杉田敦[編]『現代政治理論』(有斐閣アルマ) 有斐閣、2006, ISBN 4-641-12269-5 1,900 円		学期末試験に拠る	

03年度以降 02年度以前	政治学概説 II 政治学概説 (通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治社会の構成主体である市民の教養としての政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の理論的修得を意識した構成である。</p> <p>現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。</p> <p>テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ネーションとナショナリズム 2. 多文化主義 3. 政治とジェンダー 4. ジェンダー論の政治理論への寄与 5. 公と私 6. 公共性 7. 現代市民社会論 8. 討議的デモクラシーとラディカル・デモクラシー 9. 主権国家と国民国家 10. グローバル化と主権国家の揺らぎ 11. 国際秩序と国際組織 12. 国境を越えるデモクラシー論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
川崎修・杉田敦[編]『現代政治理論』(有斐閣アルマ) 有斐閣、2006, ISBN 4-641-12269-5 1,900 円		学期末試験に拠る。	

03年度以降 02年度以前	社会学概説Ⅰ 社会学概説（通年）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史（1）——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史（2）——E.デュルケム 4. 社会学の歴史（3）——M.ウェーバー 5. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型（3）——第一次集団 8. Identity形成と社会（1）——鏡に映った自己 9. Identity形成と社会（2）——重要な他者 10. Identity形成と社会（3）——マージナル・マン 11. 補完的アイデンティティについて 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		出席とレポート	

03年度以降 02年度以前	社会学概説Ⅱ 社会学概説（通年）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.パーゼス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 社会問題と社会学社会問題化するということ 8. 現代社会の諸問題——移民と日本社会（1） 9. 現代社会の諸問題——移民と日本社会（2） 10. 社会学の現在——メディアと地域文化（1） 11. 社会学の現在——メディアと地域文化（2） 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房</p>		出席とレポート	

03年度以降 02年度以前	哲学概説Ⅰ 哲学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。</p> <p>一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。</p> <p>西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。</p> <p>西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的立場付けなどを重視して論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 哲学とは何か(1) 2 ソクラテス以前 3 ソクラテス 4 プラトン 5 アリストテレス 6 スコラ哲学 7 科学革命 8 ルネサンスと宗教改革 9 合理論と経験論(1) 10 合理論と経験論(2) 11 社会契約説 12 啓蒙主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降 02年度以前	哲学概説Ⅱ 哲学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
(春学期に同じ)		<ol style="list-style-type: none"> 1 カント 2 ドイツ観念論 3 キルケゴール 4 ニーチェ 5 マルクス 6 フッサール・ハイデッガー・ 7 ヤスパーズ(1)(2) 8 歴史主義・解釈学 9 ウィトゲンシュタイン 10 構造主義 11 言語哲学 12 哲学とは何か(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降 02年度以前	倫理学概説Ⅰ 倫理学概説（通年）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>倫理学概説Ⅰでは、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） 2. 古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） 3. 古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） 5. 中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス） 6. ディスカッション（人間とは何か） 7. 宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） 8. 宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） 9. 近世の倫理思想（デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） 10. 近世の倫理思想（ヒュームとカント） 11. 近世の倫理思想（カントとヘーゲルとキェルケゴール） 12. ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業への貢献度と学期末の試験	

03年度以降 02年度以前	倫理学概説Ⅱ 倫理学概説（通年）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） 2. 進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝（ブーバーと西田幾多郎） 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 自然とは、地球とは 12. ディスカッション（いのち） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業への貢献度と学期末の試験	

03年度以降 02年度以前	宗教学概説Ⅰ 宗教学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。</p> <p>そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。</p> <p>更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p>		1 宗教とは何か(1) 2 神話と宗教 3 ユダヤ教 4 キリスト教(1) 5 キリスト教(2) 6 キリスト教(3) 7 イスラム教(1) 8 イスラム教(2) 9 ヒンドウ教 10 仏教(1) 11 仏教(2) 12 仏教(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降 02年度以前	宗教学概説Ⅱ 宗教学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p>		1 儒教 2 道教 3 日本の宗教の歴史と現在(1) 4 日本の宗教の歴史と現在(2) 5 日本の宗教の歴史と現在(3) 6 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)(1) 7 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)(2) 8 宗教団体の諸問題(1) 9 宗教団体の諸問題(2) 10 学校教育と宗教(1) 11 学校教育と宗教(2) 12 宗教とは何か(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	心理学概説 I 心理学概説（通年）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観することで、心理学の基本的な知見について説明していく。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を身につけ、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を養ってほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 2. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 3. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 4. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 5. 性格とは？：自己の性格理解 6. 性格理論 7. 性格の形成 8. ストレス①：ストレスと性格 9. ストレス②：ストレス・コーピング 10. ストレス③：ストレスの生理心理学 11. 現代社会とこころの病 12. 生きがいと精神的健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は使用しない。資料を配付して、講義をおこなう。		授業への出席状況と、授業での小レポート、学期末試験により総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	心理学概説Ⅱ 心理学概説（通年）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、心理学の研究領域は非常に多様化しており、その研究成果はわれわれの日常生活における様々な分野に広く応用されている。本講義では心理学がこれまでに培ってきた様々な研究成果を体験的に学習してもらいながら、その背景にある基本的考え方まで理解してもらいたい。そして、こうした学習を通して日常生活における人間の心理・行動を客観的にとらえる力を養ってほしい。それと同時に、自己理解を深めてもらいたい。</p> <p>履修者数にもよるが、講義形式の授業だけではなく、履修者によるレポートの発表、グループ・ワークなどもとり入れながら授業をすすめていく予定である。積極的に授業に参加する態度が望まれる。</p>		<p>本講義の授業計画は以下のとおりである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな心理学の研究法 2. 質問紙調査とその応用 3. 心理検査と自己理解 4. 認知の仕組み（感覚・知覚・統覚） 5. 人の知性：知能とは何か？ 6. IQとEQ 7. 親子関係と発達 8. 青年期の発達課題 9. 進路選択と適応 10. 他者と自己 11. 集団と自己 12. 現代社会と心理学（まとめ） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。		授業への出席状況とレポートによる。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	生涯学習概論	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることが、生涯社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性について追究する。まず、現代において「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校教育のあり方を考える。その上で、日本の生涯学習の現状と課題を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習社会とは 2 生涯にわたる学習機会の多様性と類型化 3 「生涯教育論」と学校 4 ノンフォーマル教育 5 社会教育の定義と社会教育法 6 社会教育の特質 7 ペダゴジーとアンドラゴジー 8 生涯教育から生涯学習へ 9 現代的課題と生涯学習（1） 10 現代的課題と生涯学習（2） 11 学社連携と学社融合（1） 12 学社連携と学社融合（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として、伊藤俊夫／国立教育研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習概論』（文憲堂）		「生涯学習体験レポート」（必須）と「最終レポート」（必須）をもとに評価する。	

03年度以降 02年度以前	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館や情報センターの機能や目的などについて、整理確認していく入門の科目である。図書館司書資格は公共公立図書館で勤務する専門職のための資格であるが、学校図書館や大学図書館、専門図書館などでも、その情報源を扱う仕事の特徴から汎用される資格である。</p> <p>単なる資格ということではなく、地域社会における公共公立図書館の存在意義や活動目的、民主主義社会で果たす役割などを担う責任をもつ情報専門職となる司書資格を取得することになる。図書館は貸し本屋ではない。また、書店やインターネットでは果たせない役割を負っている。その図書館の意義とそこで働く図書館員集団の一員として、知識や技術を蓄積し、経験をつんでいく第一歩としての概論科目である。</p> <p>他の応用的な内容の科目を理解するため、できれば早い時期に取得することを期待したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と図書館 2. 図書館法規と行政 3. 図書館の歴史的展開 4. 図書館の理念 5. 図書館員と司書 6. 図書館の実務 7. 地域社会と公共図書館 8. 地域社会と学校図書館 9. 地域社会と大学図書館 10. 国立国会図書館、専門図書館など 11. 図書館ネットワーク 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『図書館概論 5訂版』日本図書館協会、2005 参考文献：『図書館ハンドブック第5版』日本図書館協会編・発行 『図書館用語集三訂版』日本図書館協会編発行</p>		出席と複数の小課題、学期末の定期試験などで評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	図書館サービス論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何かや図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p> <p>受講者がそれぞれ利用者として体験してきた図書館活動を考えながら、整理して、サービス対象にあわせた内容の目的や効果など評価していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館サービスの意義 2 来館者へのサービス ー貸出、利用援助などー 3 資料提供の基礎 4 資料提供の展開 ー著作権法と図書館ー 5 情報提供 ーレファレンス・サービス(参考調査業務)ー 6 集会・文化活動、行事など 7 利用対象者別サービス 8 多様な利用者サービス ー図書館利用を阻害されている人々へのサービスー 9 利用者の交流の場としての図書館 10 図書館マーケティング活動 11 図書館サービスと図書館員・司書 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館サービス論 改訂版』日本図書館協会、2005		出席と複数の小課題により評価する	

03年度以降 02年度以前	図書館経営論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにはどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会と図書館の情報戦略 2. 企業の経営理論 3. 公的セクターの経営理論 4. 図書館法政策と図書館経営の実態 5. 地方自治体の図書館政策 6. 財政と図書館経営 7. 建築、施設・設備ーPFIや委託の問題ー 8. 人事管理ー専門職の役割と委託などの問題ー 9. 資料管理 10. 事業計画策定 11. ネットワーク 12. 海外の図書館経営 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の時間に参考文献リストを配布します。		小課題（1p～3p程度）を提出。また、出席をかねた授業内でのグループ討議などの授業参加度によっても評価します。課題60% 授業への参加度40%	

03年度以降 02年度以前	情報サービス論 a 情報サービス論（通年）	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（目的） 図書館における情報サービスについて、基本的な事項を解説し、理解を深める。</p> <p>（概要） 情報資料と利用者を結ぶ、図書館の情報サービスの諸相を概観する。特にリファレンス・サービスと関連する諸サービスについての理解を深める。</p>		01. 図書館の提供するサービスの全体像 02. 情報サービスとは何か 03. レファレンス・サービス 04. レファレンス・サービスの実際 05. レフェラル・サービス 06. 検索サービス 07. レファレンス・サービスの現状と問題 08. レファレンス・ツールの構造 09. オンライン情報検索 10. 利用者とのコミュニケーション 11. 情報サービスの国際動向 12. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
「情報サービス概説」小田光宏編著（JLA図書館情報学テキストシリーズ4）		出席(30%)、小レポート(40%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する	

03年度以降 02年度以前	情報サービス論 b 情報サービス論（通年）	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらには CD-ROM やオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】秋学期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p>		1 実習についての説明 2 情報サービスで用いる情報源の類別 3 辞書 4 事典 5 便覧/図鑑 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 歴史/地理・地名の情報源 8 人物・団体の情報源 9 統計の情報源 10 文献検索の情報源 11 最新の情報サービス(b) 12 授業全体のまとめ。質問受付。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

03年度以降 02年度以前	情報検索演習	担当者	小畑 信夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的・概要</p> <p>情報化社会といわれる今日、資源である情報を効果的に活用することが不可欠である。コンピュータを使った情報探索は、オフライン（CD-ROMに搭載された情報源）、オンライン（例えばインターネットを利用するデータベース検索やウェブ情報）ともに日常的な情報入手手段となっている。しかし、データベースは誰でも検索できるというものの、情報検索のための基礎的知識に裏付けられた能力を持たなければ、満足な検索は行えない。</p> <p>本講義では、データベース検索の演習を通して、実践的な能力の養成を図ることを目的とする。</p> <p>本講義では情報検索理論と検索戦略のたて方を学び、実際に検索演習をおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報検索、一次資料、情報の管理と二次資料 3 検索の概念（絞り込みと複合検索、論理式） 4 情報加工（主題分析、抄録作業） 5 情報加工（フリーキーワード、統制語） 6 データベース種類と特徴の説明 7 検索演習（人物略歴情報、雑誌記事情報） 8 検索演習（図書内容情報） 9 検索演習（新聞岸、そのた情報） 10 検索演習（総合演習問題、その他のオンラインDB） 11 関連事項（ホームページ検索） 12 定期試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書：『三訂 情報検索演習』原田智子ほか編 樹村房 平成18.10 ¥1,995。教科書 講義資料は、プリントとして配布する。またその他の参考書および関連文献は、講義の中で紹介する</p>		<p>出席、レポートおよび定期試験により、総合的に評価する。またレポート内容についての発表を課すことがある</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	情報検索演習	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報検索の基本的理論を学び、実習する。</p> <p>まず、情報検索システムで、情報の入手、主題分析、検索式の作成、索引、データベースといった諸項目と、情報要求、検索式、シソーラスの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またシソーラスについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムできるだけ活用する。CD-ROM を使用したオフライン検索では練習用のJ-BISC による実習を行う。</p>		<p>1 ガイダンス： 情報検索とは</p> <p>2 情報検索(1)：情報検索システム：蓄積サブシステムと検索サブシステム</p> <p>3 情報検索(2)：検索サブシステムと諸項目</p> <p>4 情報検索(3)：情報検索の理論</p> <p>5 データベース(1)：データベースと情報検索</p> <p>6 データベース(2)：蓄積サブシステムと諸項目</p> <p>7 インターネットの情報検索(1)：検索エンジンと諸項目</p> <p>8 インターネットの情報検索(2)：検索エンジンの利用</p> <p>9 図書の検索(1)：OPAC</p> <p>10 図書の検索(2)：JBISC</p> <p>11 商用のデータベース利用(1)：JOIS のシソーラスとその利用</p> <p>12 商用のデータベース利用(2)：JOIS 演習，まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田、江草、小山、沢井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6、樹村房、2006(3訂)		4～5回程度の自習レポートおよび出席を加味して評価する。	

03年度以降 02年度以前	図書館資料論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。</p> <p>書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料の定義 2 図書館における知的自由 3 印刷資料メディア 4 視聴覚資料メディア 5 触覚資料メディア 6 立体資料メディアなど 7 電子資料メディア 8 特殊資料メディア・専門資料メディア 9 出版・流通・販売 10. 図書館資料コレクション形成方針 11. コレクション形成の実務 12. 資料の更新・保存・廃棄など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
馬場俊明編著『図書館資料論 新訂版』日本図書館協会、2004年		出席と複数の小課題などによって評価する	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	専門資料論	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>さまざまな主題の専門図書館の活動を概観し、各主題分野における専門資料の機能、種類、記述様式、利用等について学ぶ。各自が専攻する専門主題の学習、研究に役立つツールの存在を知り、その利用法に習熟することを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>国立国際子ども図書館、国文学研究資料館、武蔵野美術大学美術資料図書室、日本近代音楽館等のコレクション特性と利用者特性について考え、それぞれの主題における専門資料及びインターネット情報源について知り、専攻主題の今後の学習に役立つ情報資源について理解を深める。</p>		<p>◆主題専門図書館と主題専門資料</p> <p>01. 国立国際子ども図書館</p> <p>02. 国文学研究資料館</p> <p>03. 武蔵野美術大学美術資料図書室</p> <p>04. 日本近代音楽館</p> <p>05. 味の素 食の文化ライブラリー（以上は順不同）の資料構成、利用者対応等について学ぶ。</p> <p>◆主題書誌等の比較検証</p> <p>06. ～10. グループワーク（予定）</p> <p>それぞれの主題研究分野の資料・情報を調べる参考図書と検索ツールの調査法、評価法と主題分野の資料の比較検証</p> <p>11～12. 研究発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「新訂 専門資料論」中森強編著（東京書籍、2004）		出席（30%）、小レポート（30%）、最終レポート（40%）により総合的に評価する	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	資料組織概説	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 情報資料の形態や内容を文字・記号に置き換えて記述し、オリジナルを代替する書誌情報を作成する理論と技術を学ぶ。</p> <p>(概要) 情報資料にアクセスするための手掛かりとなる情報を、一定の基準に則ってデータ化する技術を、歴史的、国際的な観点から概観し、その理念を理解する。また、その技術の基本原則をも理解する。さらに、インターネットの普及による情報電子化とグローバルな流通が、資料組織に及ぼしている影響と、今後の見通しについても学ぶ。</p>		<p>01. OPAC 検索とオンライン目録データベース</p> <p>02. Google Book Search とデータ検索</p> <p>03 資料組織化の歴史的発展</p> <p>04. 目録作成の国際標準化</p> <p>05. 記述目録</p> <p>06. 書誌階層、書誌コントロール</p> <p>07. 主題目録</p> <p>08. 分類表、件名標目表</p> <p>09. 書誌ユーティリティ</p> <p>10. インターネット情報資源の組織化</p> <p>11. 情報電子化の時代の資料組織</p> <p>12. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「資料組織概説 新訂版」柴田正美著 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ9)		出席 (30%)、課題提出 (30%)、最終レポート (40%) により総合的に評価する	

03年度以降 02年度以前	資料組織演習	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 前期の「資料組織概説」の履修者を対象として、情報資料の記述目録の作成、及び主題目録の作成の基本的な技術とインターネット情報資源のデータベース化の基礎技術を習得する。</p> <p>(概要) NCR (日本目録規則) による図書、マルチメディア資料の記述目録法、NDC (日本十進分類法) による主題目録の作成、及びダブリンコア・メタデータ記述要素を用いた、インターネット情報資源の組織化を実習し、情報資料の組織化の基本的技術の獲得を目指す。</p>		<p>01. イントロダクション</p> <p>02. 情報の組織化</p> <p>03～06. 記述目録法</p> <p>07～10. 主題目録法</p> <p>11～12. インターネット情報資源の組織化</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「資料組織演習」吉田憲一編著 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ10)		出席 (30%)、課題提出 (40%)、最終課題 (30%) により、総合的に評価する	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目ではおおむね年齢別利用対象者別におこなわれている公共図書館活動について、現状を把握し、将来的な戦略計画を策定可能になることを目的とする。</p> <p>読書しないといわれる子どもやヤングアダルトと称せられる10代の図書館利用者（潜在的利用者）に対する戦略的で効果をあげるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA担当司書を養成することを目的とする。</p> <p>幅広く、多くの児童書やYA向け資料を読んでもらうことになる。また、発達心理や読書心理、児童文化やYA文化、社会問題などについての研究書などについても読んでもらうことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに。図書館における児童・YAサービスとは何か？ 2.地域社会における「子ども」のイメージは何か？ 3.幼児サービス 4.小学校など児童対象の図書館サービス 5.中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館サービス 6.児童・YA図書館活動の歴史 7.子どもをとりまく大人への図書館活動 8.アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 9.図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど 10.実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 11.児童やYA向けの図書館建築における設備など 12.児童・YA図書館活動における現状と将来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業はじめに子ども向けYA向け図書館資料リストを配布する。		課題（80%）授業参加（20%）で評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	図書及び図書館史	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大きくわけて3つの分野について講義する。</p> <p>(1) 図書館資料の歴史、特に「本」の歴史と社会文化史との関わりについて講義する。特にヨーロッパ文化史の流れのなかで、「本」が果たした役割について述べる。紙など書写材料と「本」に記述され伝達される内容の変遷をコミュニケーション史の面から分析して講義する。</p> <p>(2) 海外の図書館の発達の歴史。特に第二次世界大戦後に日本の図書館形成に影響を与えたアメリカの公共図書館の歴史について講義する。</p> <p>(3) 日本の図書館の発達史。明治以前から現代までの公共公立図書館のあゆみを追い、その変遷をたどり、将来の図書館像を考えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の「本」とは何か。多様な書写材料と図書館 2. 図書館の歴史－図書館建築の歴史、文房具の歴史、書架の歴史、分類・目録の歴史、図書館員の歴史など 3. アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館 4. 産業革命と市民社会、近代公共図書館 5. アメリカの図書館 6. 公共図書館の誕生 7. 戦争と図書館 8. 日本での図書館前夜 9. 日本の図書館誕生－明治・大正・昭和前期－ 10. 日本市民社会の図書館 11. 情報流通と図書館の歴史 12. 図書館の未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書及び図書館史』日本図書館協会		出席と小課題、および学期末の最終課題によって評価する。	

03年度以降 02年度以前	資料特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、その収集・利用等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料の種類 2 新聞・雑誌 3 郷土資料 4 自作郷土資料 5 行政資料・観光パンフレット 6 視聴覚資料 7 自作視聴覚資料・絵画・写真 8 地図・電話帳・図録・楽譜 9 子どものための資料・大型紙芝居等 10 図書館利用に障害のある人のための資料・多文化サービス 11 県立図書館・国立国会図書館の資料 12 まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。</p>		レポート・小テスト・出席状況	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標：「コミュニケーション」の概念を理解し、「コミュニケーション・リテラシー」の理解・応用へと発展させることが出来る。</p> <p>講義概要： <基礎>「コミュニケーション・プロセス」における構成要素を理解する。 <専門>言語・非言語とコミュニケーションの関係を理解する。 <応用>日常生活におけるコミュニケーション理論の適用を考える。:</p>		<p>① プロローグ：コミュニケーションの構成要素 ② コミュニケーション・モデル② ③ コミュニケーション・モデル③ ④ 異文化間コミュニケーション論：言語と非言語 ⑤ 同上：言語と非言語② ⑥ 同上：異文化屈折理論 ⑦ 同上：マズローの三角形 ⑧ 同上：ジョハリの窓 ⑨ 同上：イノベーションの普及過程 ⑩ プレゼンテーション① ⑪ プレゼンテーション② ⑫ エピローグ</p> <p>※半期完結科目</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はその都度コピーを配付する。		出席回数：15%、個人レポート：10% グループ発表：30%、グループ・レポート：20% 定期試験：25%（基礎・専門・応用の3題）	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	図書館特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン著『図書館学の五法則』)ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望にそい」(図書館法第三条)の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の図書館概観 2 図書館と戦争責任の問題 3 職場の話し合いと仕事の改善 4 文庫活動 5 図書館の集会機能 I 6 図書館の集会機能 II 7 図書館活動への住民参加 8 図書館評価 9 複合問題 10 委託問題 11 コミュニケーション 12 まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。</p>		レポート・小テスト・出席状況	

03年度以降 02年度以前	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本科目は学校図書館司書教諭免許取得のための必修科目のなかでは概論にあたる。学校図書館とは何か、学校図書館司書教諭とはどのような仕事をするのか、などを講義していく。学校図書館の機能として、教育・学習センター、資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア（含む視聴覚資料）センターなどの役割と機能を整理して理解する。</p> <p>学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理や人事管理など経営者としての役割と仕事が求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。</p> <p>この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを学習目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校図書館の理念と教育的意義 2 学校図書館の発展と課題 3 教育行政と学校図書館 4 学校図書館の経営（1）施設管理 一人、施設、資料、予算、評価等 5 学校図書館の経営（2） 6 学校図書館の経営（3） 7 学校図書館の経営（4） 8 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 9 学校図書館メディアの選択と管理、提供・活用 10 学校図書館活動と教育活動 11 図書館の相互協力とネットワーク 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する。		<p>受講条件：学校図書館司書教諭課程・教職課程登録済みであること。</p> <p>評価方法：出席と平常授業での小課題など</p>	

03年度以降 02年度以前	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目では、学校図書館メディア・センターでの資料管理について講義・実習する。</p> <p>(1) 資料選択。</p> <p>どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。</p> <p>(2) 資料組織化の実習。</p> <p>学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション。学校図書館メディア資料の種類と特性 2. 資料選択理論。子どもたちの知的自由と学校図書館の使命 3. 資料選択の実際。 4. 分類－日本十進分類法（NDC）－の構造 5. 分類の実際(1)図書・雑誌・新聞 6. 分類の実際(2)メディア資料・クリッピング資料 7. 目録－日本目録規則（NCR）－の構造 8. 目録化の実際(1)図書 9. 目録化の実際(2)クリッピング資料の整理 10. 目録化の実際(3)データベース化 11. 目録検索 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館資料の目録と分類 増訂第3版』日本図書館研究会編・発行 2005.1 ISBN4-930992-16-8		<p>受講条件：・学校図書館司書教諭課程・教職課程登録済みであること。</p> <p>評価方法：毎回の授業でおこなう演習課題</p>	

03年度以降 02年度以前	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちを楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせる。この科目の目標は、各受講者がリーディング（読む）とリテラシー（書く）という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。授業案が作成できるようになることを第一段階とする。言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役＝コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの読書状況 2. 読む・書くという識字力・読書力について考える 3. 子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的好奇心 4. 子どもが読む本などを実際に読んでみる 5. 読書プログラムの検討 6. 読者育成のための教案作成 7. 「読みて」から「書きて」育成のための教案作成 8. 家庭での読書 9. 地域社会や公共図書館との連携による読書振興 10. 子どもの読書と知的自由 11. 子どもの読書をめぐる法政策 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
参考文献は最初の授業で指示しますが、子どもの本を大量に読んで評価してもらうことになります。		受講条件：学校図書館司書教諭課程・教職課程登録済みであること。 評価方法：出席点と平常授業での複数課題	

03年度以降 02年度以前	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうために、教師自身が情報探索能力をみにつけておくことが求められるので、情報探索活動能力（情報リテラシー）養成を目標とする。</p> <p>学習指導における学校図書館のメディアの活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業成立を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課題と学校図書館 2. 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 3. 学校図書館情報メディア活用能力の育成 4. 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 5. 「総合的な学習」で学校図書館を利用する教案 6. 学習指導過程における学校図書館メディア・センターの利用 7. 学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 8. 授業指導の実施（実習・発表） 9. 情報探索能力育成－印刷媒体とインターネット－ 10. 情報探索能力育成（実習） 11. 教師集団との連携 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		受講条件：学校図書館司書教諭課程・教職課程登録済みであること。 評価方法：授業での発表、課題など	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 02年度以前	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。 また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。 次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといったツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。 そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。 2 高度情報社会と学校教育。情報メディアの特性と選択。 3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用。 4 インターネットによる情報検索と発信(1)。 5 インターネットによる情報検索と発信(2)。 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 オフラインデータベースと情報検索(1)。 8 オフラインデータベースと情報検索(2)。 9 教育用ソフトウェアの活用。 10 学校での取り扱いに注意すべき情報。 11 学校図書館メディアと著作権。 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

シラバス 免許課程

2007年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1663

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	